

PLAN INTERNATIONAL

GIRLS GET EQUAL

世界を好転させるために

平等を求める女の子と
ユース女性アクティビストたち

THE STATE OF THE WORLD'S GIRLS

2023

世界を好転させるために

平等を求める女の子とユース女性アクティビストたち

プラン・インターナショナルは、2007年に初めて『世界のガールズ・レポート』を発行した。今年の報告書は、女の子とユース女性アクティビストの活動に焦点を当てている。この調査は、女の子とユース女性アクティビストに関する調査としてはこれまでで最大規模のもので、26カ国から1000人を超える思春期の女の子とユース女性が参加した。この調査では自らもアクティビストである70人のユース女性調査者の主導で対面インタビューを行い、その調査結果の裏付けとして参加型手法を用いたフォーカス・グループ・ディスカッション（FGD）が行われている点で画期的と言える[1]。



本地図に示された境界線、名称、および本地図で使用されている名称は、プランの公式な承認または承諾を意味するものではない。

表紙：Girls Out Loudグループのメンバー、ネパール
© Plan International / Sulav Photographs

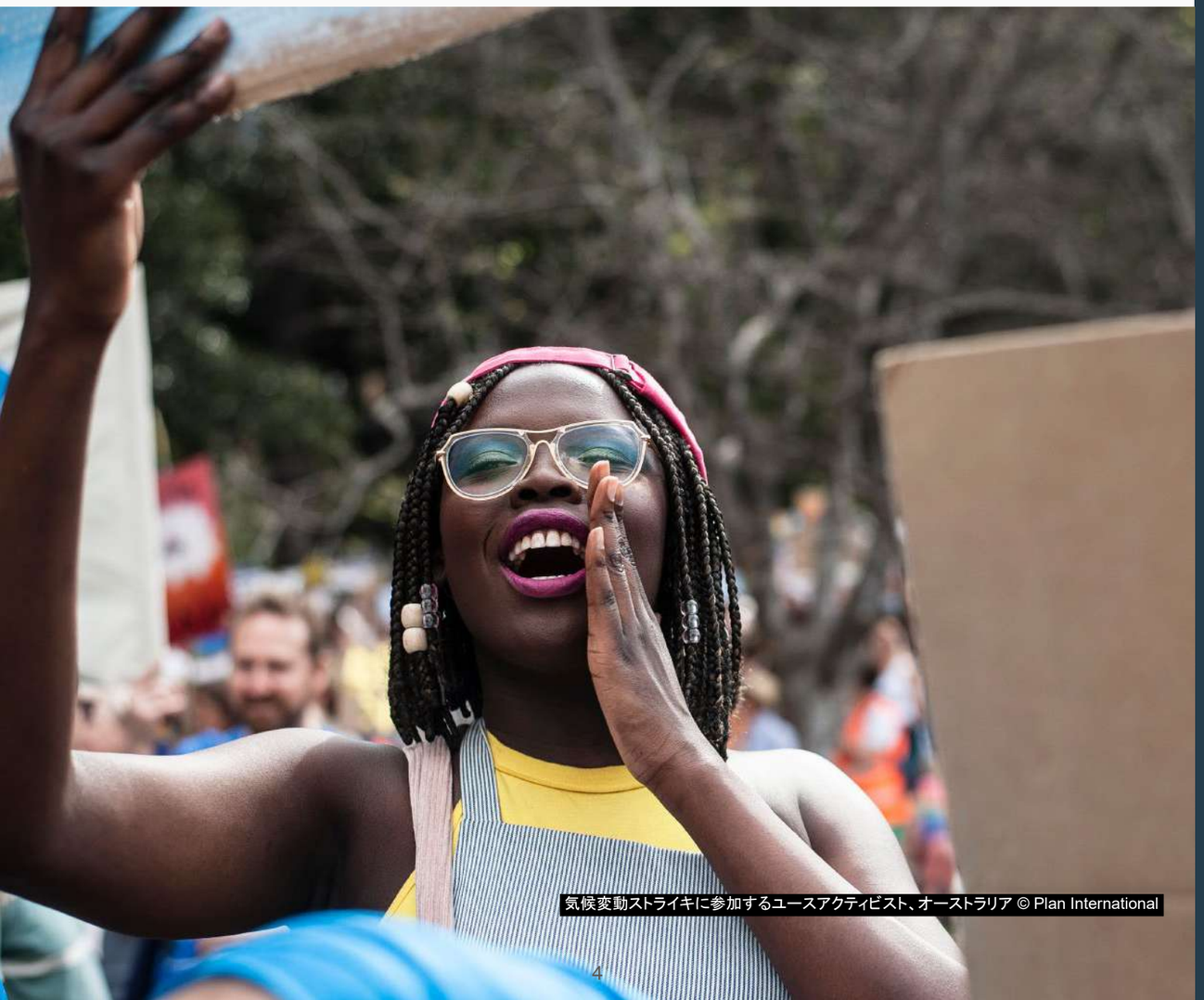
本報告書に登場する女の子とユース女性の名前は、匿名性を確保するために変えてある。大半の女の子と女性は、本報告書で使用したい名前を選んだ。提供されない場合は、仮名を割り当てた。本報告書で使用している写真は、調査参加者のものではない。

要約

この調査は、1,000人を超す参加者の声から、思春期の女の子とユース女性がアクティビストとして過ごす2023年がどういったものなのかを理解するうえでの手掛かりを提供している。

どのように扱われ、安全を感じているのか、何が原動力になっているのか。アクティビストの活動にはさまざまな形があり、民主的プロセスの重要な一部である。市民活動の場が縮小・変化するなか[2]、ジェンダー平等が停滞し、この調査を実施したいくつかの国では抗議する権利が厳しく制限されている[3] 今、女の子とユース女性の声を聞いてもらう権利は保護されなければならない。本調査は、女の子のアクティビストが主導する活動を強化・支援するために、女の子とユース女性アクティビストが直面する障壁、そして彼女たちを突き動かし前進させる原動力を理解することを目指している。

* 調査に840人、インタビューに203人、FGDに57人の女の子とユース女性が参加した。



気候変動ストライキに参加するユースアクティビスト、オーストラリア © Plan International

主な調査結果

インタビューとFGDに参加した女の子とユース女性の発言から

アクティビストの活動を成功させる鍵

- 教育
- リーダーシップや人前で話すなどのスキルの訓練
- 知識の習得

アクティビストの活動に立ちはだかる障壁

- 資金不足
- 自信のなさ
- 身の安全への不安
- 年齢やジェンダーによる差別
- 縮小する市民活動の場
- 抑圧的な法律
- 官僚主義的な制度

調査対象の女の子とユース女性の回答から：

60%
が「**ジェンダー平等とジェンダーに基づく暴力（GBV）**」にもっとも積極的に取り組んでいる。

ほぼ
60%
が**オンラインと対面**の両方で活動している。



95%
が「アクティビストとしての活動は自分にとって**プラスに影響**している」と回答。

61%
が、変化を生み出すという自分の活動は**「期待通り」**、あるいは**「期待以上」**の効果を上げていると回答。

25%
が、「活動中に**感情や心理面**で**不調や不安**を感じた」と回答。

27%
が、地域住民や家族、友人から否定的な意見を言われたために、アクティビストとして活動することができなかった。

61%
が、アクティビストとして活動したことで**「マイナスの影響を受けた」**と回答。



54%
が、アクティビストとしての活動を妨げている一番の障壁として**「経済的な余裕のなさ」**を挙げた。

17%
が、アクティビストとして活動中に**身の危険を感じた**ことがあると回答。

21%
が、活動に参加した場合の安全への不安を理由に**活動に参加できなかった**と回答。

障壁が立ちはだかっているにもかかわらず、思春期の女の子とユース女性アクティビストの大半が活動を続ける決意を固め、ライフワークとして捉えていた。

序文

25歳のMuzoon Almellehanはシリア難民であり、教育問題に取り組むアクティビストである。2013年に家族とともにシリアからの脱出を余儀なくされて以来、緊急事態下の子どもたちの教育のために活動を続けている。ヨルダンの難民キャンプで3年間暮らした彼女は、現在イギリスのニューカッスルに住み、ニューカッスル大学の卒業生でもある。彼女はユニセフの親善大使として、緊急事態下の教育について心からの訴えを力強く続けている。2020年にはドレスデン平和賞を受賞し、10代の頃にはBBCの「最も影響力のある、心を揺さぶる女性100人」やタイム誌の「最も影響力のある10代のユース30人」に選ばれた。

今回出された女の子とユース女性アクティビストの活動に関するプランの報告書には大きな意味があります。私たちの声など取るに足りないものだとよく言われますが、この報告書は私たち、そして他の人々の権利のために闘うことは決して意味のないものではないことを示しており、それは私自身の経験からも言えることです。

私たちは、社会を良い方向に変える力があると感じたら、自分たちの心の声を信じて変化を起こすために行動を起こさなければならない。そう気づいたとき、私はアクティビストになろうと決意しました。私の場合は、他の子どもが教育を信じ、学校に行くように、そして最も重要なことは、子どもたちが権利、特に学ぶことを決してあきらめないように、私自身の声を使って働きかけることが非常に重要だと感じまし故郷を離れて暮らすなかで強く思うようになったのは、喪失や苦しみを強いられているという事実を黙って受け入れないということ、そして私たちにはそうした状況に屈しない力があり、権利が与えられるべきことを示さなくてはならないということです。さらに、教師として働いていた私の家族に教育がもたらしてきた大きな変化を見たことが、教育のために自分の声を使って闘う私の決意を後押ししました。私の父、叔父、叔母は学校の教師でした。そのため、私は教育を受けて自分のコミュニティを支え、周囲の人々の成長に積極的に貢献したいと考えるようになりました。

しかし、いざ変化を起こそうとすると、それは容易ではなく、また一筋縄でもいきません。アクティビストとして活動するには、目標を達成するための途方もない忍耐力と強い意志と決意が必要なのです。私は世界中の何百万人もの人の代弁者となり、彼らが私の話を自分に当てはめて力を得ていることをとても誇りに思っています。誰であろうと、何歳であろうと、どこの出身であろうと、声なき人びとの変化のきっかけとなることほど、誇らしく思うものはありません。私の声は、彼らが権利を獲得し、正当に扱われ、世界中の同世代の仲間と平等になるためにあるのです。

変化をもたらしたいと考えるすべての女の子とユースにまず伝えたいのは、たとえ小さなアイデアや行動であっても、決して過小評価しないことです。なぜなら、それらは最も重大な違いや影響を生む種だからです。変化を起こしたいときはいつでも、自分を信じて、どんな困難があっても決してあきらめないことです。進み続ければ、やがて目的地にたどり着くことができます。

コミュニティに変化をもたらすために個々人は重要ですが、危機を解決できるのは私たちみんなの行動であり、それこそがより良い世界を築くために力を合わせて目指さなくてはならないものなのです。だから、私たちは世界中で困っている人たちや苦しんでいる人たちのために声を上げ続けなければならない。私たちが彼らのことを忘れておらず、彼らの課題に対して行動を起こしていることを彼らに知ってもらうことが重要です。



2022年8月31日、ユニセフ親善大使のMuzoon Almellehanは、ヨルダンの東アンマンにあるユニセフが支援するマカニ・センターの子どもたちを訪問した際、10歳のShahedと一緒に数学の加速学習クラスに参加した。

目次

要約.....4

序文.....6

はじめに.....10

状況説明.....12

調査方法.....14

私たちが学んだこと.....15

1.キャンペーンの優先課題.....16

3アクティビストの活動の影響.....20

4思春期の女の子とユース女性はどのように組織化するか.....22

5教育.....23

立ちはだかる障壁と課題.....25

1資金調達.....27

2自信のなさ.....28

3安全への不安.....29

4年齢＋ジェンダー.....30

5人種、宗教、民族.....32

6構造的障壁と市民活動の場.....33

7無視できない批判的意見.....34

これからの道.....38

結論.....40

提言.....43

行動への呼びかけ.....44

謝辞.....48

声を上げる



Vidalia、19歳、グアテマラ

p.14



Narin,、19歳、ドイツ

p.28



Wisdom、23歳、ナイジェリア

p.37



Tam、23歳、ベトナム

p.39



CEOより

今年の『世界ガールズ・レポート』は、女の子とユース女性が自分と他者の権利のために活動する際に直面する経験と課題を中心にアクティビストの活動についてまとめたもので、プランの活動を通して私たちが知るすべてが真実であることを裏付ける内容になっています。女の子とユース女性は、活動にあるさまざまな障壁を克服するための創造性、エネルギー、決意を無限に蓄えています。彼女たちはジェンダー平等のために辛抱強く活動し、GBVに挑戦し、気候変動に関する意識を喚起し、同世代の仲間の生活を改善するために地域キャンペーンを展開しています。彼女たちが持つレジリエンス（乗り越える力）に疑いの余地はありませんが、私たちは積極的かつゆるぎない支援をする必要があることを、かつてないほど確信しています。

それはなぜか？ユース女性たちは多大なリスクに直面しています。有害な規範を打ち破ろうとする彼女たちは、しばしば家族やコミュニティから問いただされます。安全な人工妊娠中絶、LGBTQIA+の権利、包括的性教育など、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)の分野で苦労して手に入れた権利を押し戻そうとする反権利運動の標的にさえなりかねません

アクティビストたちは支援、そして私たち皆が結集した力を求めており、この報告書で、アクティビストたちが私たちに何ができるか、何をしなければならないかを教えてくれたことを嬉しく思います。彼らが必要としているのは、資金、訓練、政策立案者や政府との協力における支援、そして社会のあらゆるレベルでの意思決定プロセスへの参加を積極的に促すための意識改革である、というメッセージがはっきりと伝わってきます。その取り組みは密接に関連し合った内容だと言われています：ジェンダー平等の達成には、貧困への取り組みが必要であり、教育を促進し気候変動対策の緊急性とそれが人々の生活に及ぼすさまざまな影響を理解することも、またしかりです。プランでは、ユースをすべての活動の中心に据えるために活動の方法を再構築し、こうした本質を踏まえて実践していきます。

女の子たちとユース女性アクティビストたちは、長い道程に立っています。私たちは、言葉だけでなく行動でも、彼女たちをしっかりと支援しなければなりません。プランは、あらゆる機会をとらえて可能な手段すべてを用いて、彼女たちの声を高め、増幅させ、変革への意欲を支援することを約束します。

Stephen Omollo,
CEO Plan International

はじめに

「ええ、私は参加しています。女の子と若い女性の権利のための闘いにね。誰かの働きかけがあったわけではなく、ある意味、自分自身が参加する必要性を感じたのです。なぜなら、私には導いてくれる人も、女の子の権利の闘いというものを働きかけてくれる人もいなかったから、いろいろなことが起こるのだと気づきました…この一連の流れは、家父長制との闘いでもあります。」

Eva、22歳、ブラジル

プランは、10年以上にわたって女の子とユース女性のためのキャンペーンを展開し、2007年からは女の子の権利に関する年次報告書を作成している。「Girls Get Equal」

キャンペーンでプランは、女の子の声、力、リーダーシップを擁護し、女の子の人生に影響を与えその将来を左右する問題に女の子自身が参加することは、権利の問題であるだけでなく、より広く社会全体にも利益をもたらすと主張してきた。今年の報告書は、アクティビストの体験に焦点を当てている。思春期の女の子とユース女性が変化を主張し、自身の権利のために闘うとどうなるのか。本調査では、思春期の女の子とユース女性の協力の下、彼女らとともに、そして彼女らのための調査を共同で行うことに専心している。この調査を主導するために選ばれたユース女性アクティビストたちのおかげで、思春期の女の子とユース女性が語るべきアクティビストの活動の話の核心に迫り、彼女たちの考え方と声をさらに増幅することができる。参加と活動は民主主義の基本であり、ジェンダー平等は闘うだけの価値があり、私たちは運動のリーダー、アクティビスト、変革者、政治家として、より多くの女の子とユース女性を必要としている。

直近10年間では多少の進展が見られた：ジェンダー平等は、喫緊の人権問題としてより明確に認識されるようになり、女性の権利と子どもの権利の隙間で抜け落ちる恐れのあった女の子たちの経験は、現在ではより重視されるようになっている。しかし、思春期の女の子とユース女性の話を聞くと、彼女たちの多くが逆風の中にいることは明らかである。調査に参加した女の子は、特に特定の問題（中絶、SRHR、LGBTIQ+の権利）をめぐる抑圧的な法律が、彼女たちの活動の妨げになっていると語った。権威主義的な政府と政治運動が、ジェンダー平等をますます後退させている：最近の進展がどうであれ、女の子とユース女性の権利は危機に瀕している。あるユース女性が言うように、家父長制が台頭しつつある。

「あたかもここにいて、一見助けようとしているかのようですが、実際は家父長制国家のままです。法律や規則があっても、私たちを守ってくれるはずの法律は尊重されず、女性を守るための実施基準にもなっておらず、そして私たちはいまだに家父長制と宗派主義に基づいて機能する社会にいるのです…女性に平等はありません。女性に対する犯罪と暴力が法律上認められ、体系化されているのです。さまざまな種類の暴力から女性を守るために必要な資源と手段が私たちの国にあるとは思えません。」

アンナ、24歳、レバノン

プランは過去4年間に53カ国で調査を実施し、変化を起こすため最前線にいる女の子と女性アクティビストを含む7万9,000人超の女の子とユース女性から話を聞いてきた 。昨年の**世界ガールズ・レポート**（SOTWG）「Equal Power Now: Girls, Young Women and Political Participation」では、政治家が女の子とユース女性の意見を理解していると考える女の子は3人に1人未満であることが明らかになった。政治家が自分たちの権利を代弁し、自分たちの利益を守ることを当てにすることはできず、彼女たち自身が主張する必要がある。アクティビストが取り組んでいる問題は重なり合い、絡み合っている。アクティビストとして活動するに至る経緯はさまざまだが、出身国がどこであれ、支持する大義に粘り強く打ち込み自分たちの世界を改善したいという野心はみな変わらない。女の子とユース女性が主導権を握り、注目を集め、成功することを目指している。

「私が提言活動をするのは、それが私が心から大切にしているものであり、変化を起こすにも何をするにも、貧困を減らすことが基本だからです。他のすべての関連分野において前進するためにも、それは不可欠です。貧困は多次元的な問題です。気候変動やジェンダー平等などで私たちが受けている非人間的な扱いは、貧困と深く関わっていおり、貧困に取り組むことは非常に重要だと考えています」

Belkis、22歳、エチオピア

主な定義

- アクティビズム：公共の利益を実感できるよう社会を変えたいという願望の下で、社会、政治、経済、環境などを改革するために行う推進、妨害、指示、介入などの取り組み。
- キャンペーンや集団的行動：変化をもたらすために人々がともに具体的な行動を計画して実行することを指す。意思決定プロセスや結果を変えるために意思決定者に影響を与えたり、社会的・政治的な変化を生み出すために対象となる集団の関連する考え方や行動、規範に影響を与えたりする形がある。集団的行動は、集団内で行われる場合や、複数の集団やネットワークの集団的な取り組みとして行われる場合がある。
- アクティビスト/提言アクティビスト/キャンペーン参加者：体系的な変化と、対立から飛躍して新しい創造的な解決法を探し出す紛争転換のために（多くの場合、集団的な）行動を起こす子どもたち、思春期の若者、ユース、特に女の子とユース女性たち。文脈によっては、「アクティビスト」という用語が適切でない場合もあり、「提言アクティビスト」、「ユース指導者」、「影響を及ぼす情報発信者」、「変革者」と名乗ることもある。

ユース協議に参加する女の子、パラグアイ
© Plan International

状況説明

長年にわたり、ジェンダー平等の進展は2歩前進し、1歩後退すると言われてきた[4] が、これは楽観的な見方である。最近の研究でも裏付けられている：2015年から2020年にかけて、世界レベルでのジェンダー平等はほとんど進展していない[5]：世界経済フォーラムによれば、ジェンダー平等の達成までにはあと131年かかるという[6]。COVID-19パンデミックで、女性に対する暴力とCEFMUが増加したことでも、事態の悪化は裏付けられている[7]。さらに、非正規雇用や低賃金の仕事の大半を占める女性が働き口を失い、主に女の子や女性が担っている無償のケア労働が増加するなどの影響もある[8]。

こうした進展のなさに気づいていないわけではなく、ユースたちは現在もこれまで通り、変化を求めて最も積極的に活動している。力をつけた女の子が社会変革の先頭に立つ役割を担えることを、膨大な調査が証明している。ラテンアメリカの「#cuéntalo」キャンペーン、ブラジルの「#meuprimeiroassedio」キャンペーン、そして世界的な「#metoo」運動など、性的暴力・ハラスメントとの闘いを主導しているのは、思春期の女の子とユース女性である。最近のイランの女性運動では、Marsa Aminiが道徳警察の拘留中に死亡した後、あらゆる年齢層やバックグラウンドの女性たちが正義、改革、権利を要求している。

さまざまな国の思春期の女の子とユース女性が、世界的な運動を組織し、多様な問題に取り組んでいる。女子教育を求めて活動し15歳でタリバンに銃撃されたMalala Yousafzaiや、同じく15歳で気候変動に焦点を当てた抗議運動「Fridays for Future」を立ち上げ、今では数万人の支持者を持つGreta Thurnbergのようなユース女性たちである。そのうちの一人、Vanessa Nakateは、Thurnbergに触発されてストライキを開始し、数ヶ月間ウガンダ議会議事堂の門の外でたった一人で抗議を続けた。他の女性たちも彼女に加わり、彼女は「Youth for Future Africa」とアフリカを拠点とする「Africa-based Rise Up Movement」、そして学校を太陽エネルギーに移行させる「Green School Project」を設立した。こうしたユース女性、そして彼女たちのような他の多くの女性は、どこにでもいるユース女性が持つエネルギーと能力を証明している。

「私が積極的に取り組んでいるのは…子どもや、女性、女の子、ユースに関わることなら何でも、積極的に取り組んでいる。だから、どんな問題であろうと、それが彼らに深刻な影響を与えるものであれば、私たちは積極的に取り組む。」

Amy、19歳、シエラレオネ

フェミニズム活動を支援し、資源を提供する方法は、ジェンダー平等を推進する上で最も大きな影響を与えるものだ[9]。それが現時点では行われておらず、フェミニスト組織は、特に低・中所得国において、わずかな予算で活動を続けている：世界女性基金からの資金提供を求めている低・中所得国の女性の権利とフェミニスト組織の48%が、直近の会計年度の予算は年間3万米ドル未満だったと報告している[10]。2021年には、新たな資金提供の約束にもかかわらず、女性の権利団体は政府開発援助（ODA）全体の0.13%、ジェンダー関連支援全体の0.4%しか受け取っていないと推定された[11]。2017年～2022年のデータを用いた最近の国連報告書が、女性に対する偏見が10年前と同様、今も根深くあることを示しているとしても、おそらく驚きはないだろう。

世界人口の85%を対象としたジェンダー社会規範指数では、男女ともに10人中9人近くが女性に対する根本的な偏見を持っていることが明らかになっている。80カ国で半数が、男性の方が優れた政治指導者になれると考えており、4分の1は、「男性が妻を殴っても問題ない」と考えている[12]。



国際ガールズ・デー記念イベントに参加する女の子たち、トーゴ © Plan International

なぜ思春期の女の子とユース女性は組織化するのか

社会変革を目指すアクティビストの活動やキャンペーンの例は数え切れないほどあり、ユースが参加する理由もさまざまだ。運動を通して抗議を行う集団への強い共感、家庭環境、階級、教育、その他アクティビストとしての活動を後押しする政治や社会に対する姿勢など、すべてが理由だ[13]。

- 1996年から2010年の間に生まれたZ世代は、2008年に始まった不況の中で成長してきた。加えて、ちょうど成人する時期にはCOVID-19パンデミックの影響を受け、その間に不平等が拡大し、近年では政治的権利や市民的自由が世界的に低下している 。その上ユースは、以前の世代にはなかったようなニュース・情報やユーザー生成コンテンツに24時間いつでもアクセスできる。彼らは、正すべき多くの過ちについての情報を浴びせられ、目を背けることも難しくなっている。知らなかったとは言えない。
- 市民の参加と結社の自由を追跡調査しているCIVICUSモニターのデータによれば、市民活動の場は縮小の一途をたどっており、現在、開かれた市民活動の場のある国に住んでいるのはわずか3%に過ぎない[15]。移民に対する非人道的なアプローチの増加、女の子、女性、LGBTIQ+の権利の後退、そして世界的な極右グループの台頭が、ユースたちを行動に駆り立てる。南北アメリカにおける民主主義の後退を指摘する組織は多く、フェミニスト政策に強硬に反対する動きも見られる[16] 。その結果、エルサルバドルやアメリカの一部では中絶が、グアテマラでは流産が犯罪と見なされ、学校では生徒に異性間以外の関係について教えることが禁止されるなど、女性を脅かす法改正につながっている[17,18,19]。こうした市民の自由に対する攻撃や、人種、ジェンダー、民族、性的指向、社会階層に基づく差別的慣行の増加は、ユースたちを不正と闘う集団的行動に駆り立てる。市民活動の場の縮小は、オンライン空間でも起きている。

デジタル・テクノロジーには、市民社会組織やその活動を制限する大きな力があり、反対や異論を抑制するために利用されることも多い[20]。

- 世界中のユースに、制度に対する不信感の高まりが見られ[21]、上の世代が行動を起こさないと感じられることに不満を募らせている[22]。ユースが結集し、特に移民、フェミニズム、LGBTIQ+の権利に焦点を当てた運動に参加する一方で、こうした運動を行うなかでユースと大人の指導者の間に緊張関係が生じる場合も多い[23]。ユースアクティビストらの行動は彼らの価値観を反映しており、彼らはジェンダー平等と多様性を信じ、環境破壊への怒りを抱き、何の行動もしてこなかったように見える上の世代へのいら立ちを募らせている[24]。
- SDGsは、グローバルな開発の取り組みに対する枠組みであり、その枠組みは、ユースを受動的な受益者ではなく、目標達成に向けた取り組みに積極的に参加する者だと認めている。ユースの参加の重要性を認識する国連は、ユースの参加と彼らのさらなる活躍を促すために、「国連子どもとユースのための主要グループ2030戦略」などのメカニズムを設立した。しかし、言葉とは裏腹に資金は依然として不足しており、正式な市民参加としてユースが関わる例が減少していることを示す例は枚挙にいとまがない[25,26]。

しかし、私たちの調査から明らかなように、全体的な参加は減少していない。学校、家庭、政府レベルで、請願から抗議行動、社会規範への挑戦まで、女の子とユース女性はさまざまな形で関与し活動している。

「人びとを助け、物事を変えることができれば、心が満たされます。すべてが活動につながると思います。私の心にとても近いものなのです。」

Praia、24歳、ブルキナファソ



声を上げる

Vidaliaはグアテマラの農村部出身の19歳。彼女は現在大学でソーシャルワークを学んでおり、幼い頃からアクティビストとして活動してきた。彼女は今年のSOTWG報告書の共同調査者であり、彼女自身の活動についての考えや、学んだことをどう受け止めているかを語ってくれた。

私の出身地域では、アクティビストとして活動するのは特に困難で、移動だけでも大変です。多くのユース女性がほとんど教育を受けておらず、他の場所で仕事を探すためにコミュニティを離れます。私はこの状況を変えたいと思っています。学位取得の一環として、私は社会の仕組みについて多くのことを学び、その情報を故郷の家族やコミュニティの人びとに伝えています。卒業後は、自分の住んでいるコミュニティに関連した仕事をし、得た知識で、自分が住んでいる地域の女性と子どもに変化をもたらす手助けをしたいと思っています。

大学内でも積極的に活動するようになり、学界のリーダーや市長、町議会議員に連絡を取り、女の子とユース女性の状況、特に女子教育について話しています。

調査者として、私は3人のまったく異なるアクティビストと3回のインタビューを行いました。彼らはまったく異なる生活を送っていましたが、ひとつの点で意見が一致しました。アクティビストとしての活動は大変な場合があるということです。支援に乗り出す組織や個人がたくさんあるわけではないので、支援を得るのが難しいこともあります。また、彼女たちが扱う問題のなかには、彼らが住み、働くコミュニティに軋轢を生むものもあります。黙らせるために脅迫される場合もありますが、私が話を聞いたユース女性たちが生活し仕事をする上で、それはつきものでした。それでも 彼女たちは、自分が所属するグループや、関心を寄せる問題のために、今も闘い続けています。アクティビストの一人は、彼女たちを保護し支援するための国内法はあるが、実践されていないと語りました。

他の人たちと協力することはとても重要だと思います。集団で物事を行えば、より強力になる。権利を守るために投獄された人々がいます。彼らは解放されなければなりません。自分の権利を守ることが問題ではないはずです。

国に影響を与え、それによって人びとが自由を感じることができるように、法律が施行され、新しい法律が生み出されることが重要です。

調査方法[27]

この調査は思春期の女の子とユース女性1,000人超を対象としたもので、女性アクティビストを対象とした調査としてはこれまでで最大規模のものである。また、調査は混合法と、アクティビストでもあるユース女性がピアツーピアインタビューを行う参加型手法を用いて実施された。調査では以下のことが行われた。

- 4地域26カ国の840人を対象に20問のアンケートを実施。データ収集は3月8日から4月24日までの6週間にわたってオンラインで行われた。参加者の60%は20～24歳のユース女性で、40%は15～19歳だった。
- 同じ26カ国でアクティビストを自認する女の子とユース女性203人を対象に、ピアツーピアの形で一連のインタビューを行った。インタビュー回答者の73%が20～24歳、27%が15～19歳であった。インタビューは半構造化形式で行われ、インタビュー対象者との自由なディスカッションの場で回答に応じた質問をして掘り下げられるようにした。データ収集は、オンラインまたはプランのオフィスで対面式で行われた。質問者は、質的インタビューと倫理に関する研修を受けた。
- FGDには全体で57人が参加し、Zoomで行われた。なお、匿名性を確保するため、インタビューやFGDに参加した女の子とユース女性の名前は仮名を用いている。

英国を拠点とする海外開発研究所の調査倫理委員会から研究倫理の承認を得た。すべてのデータ収集方法に関する潜在的リスクと軽減策を特定するため、完全な保護リスク評価を実施した。

私たちが学んだこと

キャンペーンの優先課題 p.16

アクティビストの活動の形態 p.18

アクティビストの活動の影響 p.20

思春期の女の子とユース女性はどのように組織化するか p.22

教育 p.23

1. キャンペーンの優先課題

60% の調査回答者がジェンダー平等とGBVを優先課題と考えている。

多くの回答者が複数の課題に取り組んでおり、関心のあるテーマは互いに重なり合っている：たとえば、ジェンダー平等は、GBV、SRHR、貧困、環境と絡み合っている。

「私にとって、社会正義運動のなかで最も心を動かされるのはジェンダー平等です。それは、自分の人生に大きくかかわる部分だからです。自分自身を受け入れ、自分のために立ち上がり、自信を持ち、声を上げ、そしてもちろん、この世界で不平等に苦しんでいるユース女性の先頭に立てるようになった。私にとって重要な運動です。」

Enna、18歳、フィリピン

GBV、SRHR、気候、そしてヨーロッパで特に重要視されていた環境は、すべて優先課題として挙がっている。中東、東部および南部アフリカ諸国、アメリカ大陸では、ユースの権利と意思決定への参加が上位に挙げられている。個人的な問題は政治的な問題である。ユース女性の日常生活をめぐる問題にもジェンダー不平等が表れていると考えられ、月経衛生管理や生理用品への課税反対などのキャンペーンが広まった。彼女たちが憤慨しているさまざまな問題の間にはつながりがあり、その影響を女性と女の子が特に受けていることは、はっきりと理解されている。

「私たちが理解しなければいけないのは…気候変動はすべての人に影響を与えますが、特にエチオピアのような国や発展途上国では、女の子と女性の方が気候変動の影響を受けるということに気づきました…たとえば、気候変動が起きると水が手に入らなくなります。農村部では、水を汲みに行く女性がレイプされたり、肉体的な嫌がらせや言葉による嫌がらせを受けたりします。彼女たちにとっては、こういう形で問題になるのです。だから、気候変動の影響は、男性よりもむしろ女性に大きいのです」

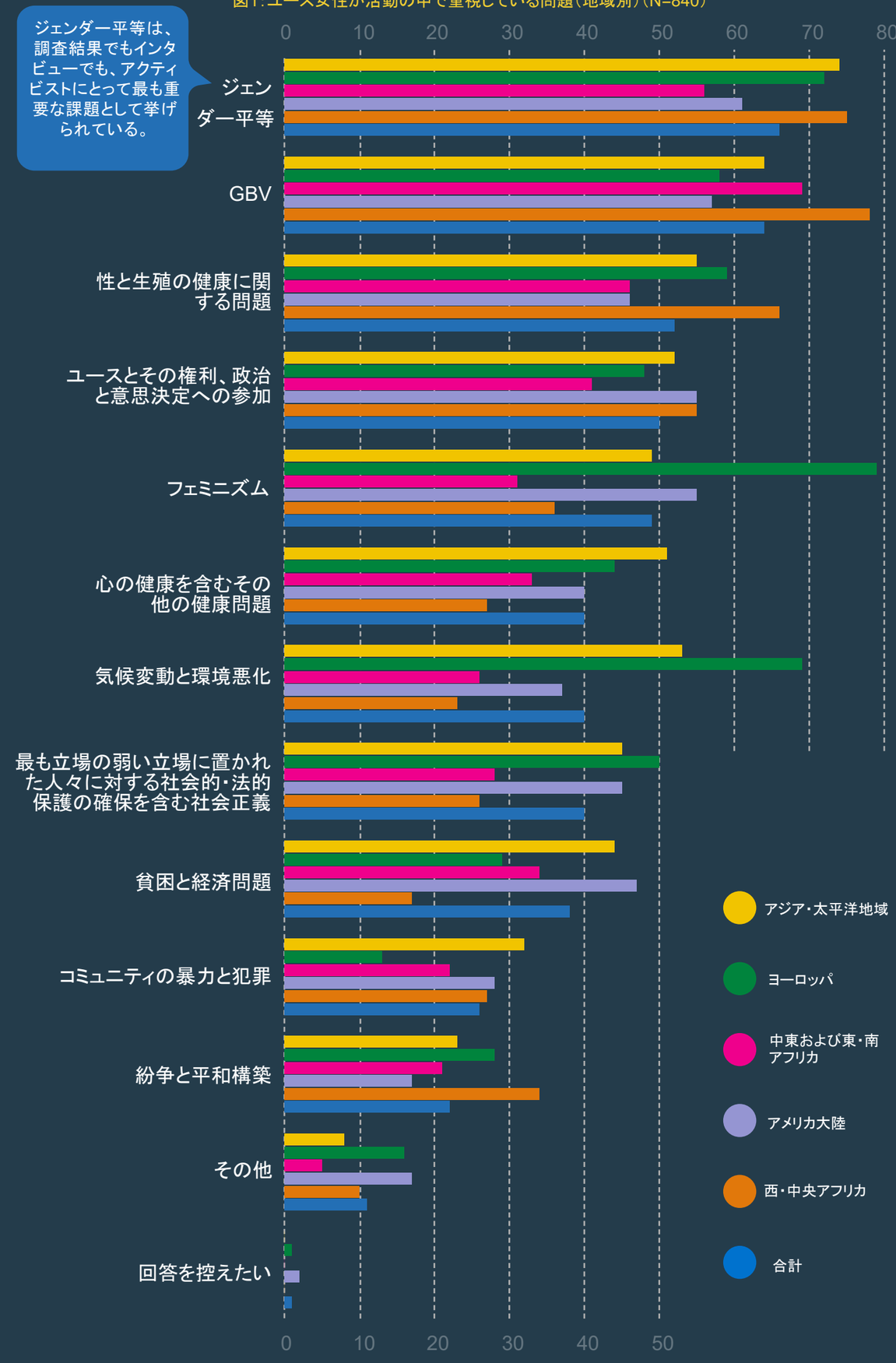
A、24歳、エチオピア

回答者は全体的に、自身の活動について友人と話し合うことに満足していた。70%が「快適」または「とても快適」と答えたが、家族やコミュニティとなると、それぞれ60%、50%に減少した。



第1回アラブ・ガールズ・サミットでスピーチするガールズ・リーダー、ヨルダン © Plan International

図1：ユース女性が活動の中で重視している問題（地域別）（N=840）*



2. アクティビストの活動の形態

アクティビストの活動にはさまざまな形がある。思春期の女の子やユース女性がどのように活動しているかについては、年齢による違いは見られなかったが、LGBTIQ+であることを自認する人々は、直接会って活動する傾向が低く、27%に比べて19%であった。場所にかかわらず、オンラインだけでの活動よりもオンラインと対面での活動を混合した方が好まれていた。

最も効果的な活動の形については、明確な答えは得られていない：積極的に活動を行っている参加者の30～35%が、発言やオンラインまたは対面での活動、社会的・体系的な変化を促すための集団への参加、提言活動や影響力を行使するためのスキルや才能の活用をトップ3に挙げている。デモ、行進、公的抗議行動に参加することが重要であるとされたのはヨーロッパだけであった。おそらく、抗議する権利に対する制限が最も少ない地域だったからだと思われる。

アクティビストであると自認している人を対象とした選考プロセスから予想されたとおり[28]、ピアツーピアインタビュー参加者の圧倒的多数は、積極的に活動に参加していた。彼らはコミュニティで活動し、話し合いの場で意見を述べ、啓発のために講演を行い、メディア戦術を駆使し、地元の意思決定者に働きかけ、大規模なキャンペーン企画との連携をすすめ、イベントを企画した。

インタビュー回答者は、オンラインでも対面でも活動していた。ソーシャルメディアはユースと接点を持つのに不可欠であり、計画を立て企画をまとめる上でも多くの場合便利だが、本当の情報が得られるのは顔を合わせた時だと、彼女たちは感じていた。

「直接会って話す方が好きです。大勢の人たちの中にいると、何かとても力強いものがあるし、仲間意識が芽生えて、みんな一緒にやっているんだという気持ちになれる。ネットの世界にいると、画面の中で人に囲まれていても孤立しているように感じることがある。電話やノートパソコンの電源を切れば、そこにいるのは自分ひとりなのです。」

Elaine、21歳、アイルランド

政府の行動と支援はほとんどの国で歓迎されたが、不十分だった。

「基本的に、政府は彼らなりに努力している。これは一人でできることではないことを私たちは知っているから…待たなくてはいけないことは十分わかっているけど、とにかく少しずつ少しずつなのです。しかし、自分たちのために総動員でどう闘うのがベストなのか、それは私たち次第です。」

Amy、19歳、シエラレオネ

政府の支援について語るアクティビストもいる：たとえばナイジェリアのMary　John,（16歳）は、連邦女性省がCEFMU(早すぎる強制された結婚）をなくすキャンペーンや、ユース女性の教育への障壁に取り組むキャンペーンにどう取り組んでいるかを説明した。どこの国でもこうしたことが行われているわけではなく、政府の政策やプログラムの一環としてではなく、その場しのぎの支援が行われている可能性を指摘する女の子たちもいた。

「自治体や州レベルでは、生理用ナプキンの配布というキャンペーンがあるが、そこまでなのです。実際にはもっといろいろなことが起きていて、解決しなければならない状況があることを理解する必要があります。生理の貧困は単純に配布や支援をすれば済む話ではないことを知る必要がある。生理の貧困の問題は、生理用ナプキンの配達の先に広がっているのです。」

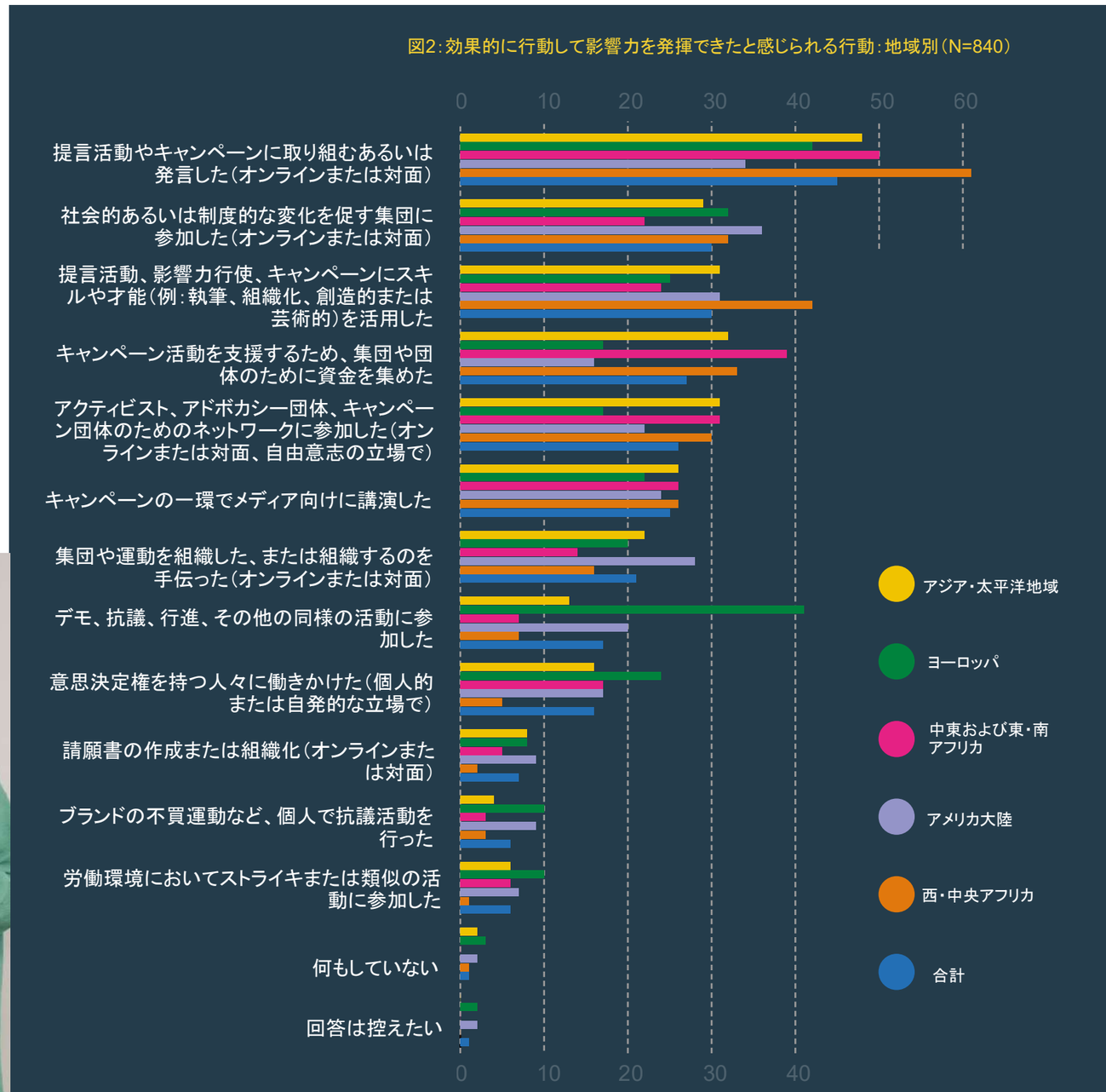
Adriana　24

また、特に彼女たちが影響を受ける問題についてさまざまな人からの意見をより多く取り入れることで、物事の進め方が変わり始め、良い結果につながるスピードが上がっていると感じている。

「政府は世論に押され、経口避妊薬に積極的に取り組んでいます。しかし問題は、意思決定の場に女性がいないことだと思います。意思決定プロセスにジェンダーバイアスがあるのです。」

R、22歳、日本

図2：効果的に行動して影響力を発揮できたと感じられる行動：地域別（N=840）





ユース女性、Girls Out Loudのモデレーター、ニジェール
© Plan International

60% の調査参加者が、オンラインと対面の両方で提言活動に従事



She Leadsプロジェクトでジェンダー平等を訴えるユース女性、レバノン
© Plan International / Hasan Noureddine



61% の調査回答者が、活動の影響について「期待通りだった」「期待以上だった」と答えている

カナダの会議でのユースアクティビストたち
© Plan International / Ben Cox

3. アクティビストの活動の影響

インタビュー回答者は、自身が及ぼしている影響を肯定的に受け止め、今後については現実的に辛抱強く待とうとしていた。彼らは、法律や政策のレベルの変化より、むしろ地域の問題やコミュニティの変化に集中していた。

「私はアクティビストとしての活動を通してある程度変化をもたらしたと言いたい。それは政府の大きな政策レベルではなく、コミュニティのレベルかもしれない。最近、電子廃棄物を管理する電子廃棄物プロジェクトに参加したのですが、たとえばノートパソコンや携帯電話を処分した後はどうなるのか?廃棄物は気候に影響を与えるので、そのような政策を作るための提言活動として、電子廃棄物の処理に関する教育を行いました。政策が作られたわけでもないけど、そのような廃棄物をどう管理するかについて、地元で解決策を考え出しました...現在は、電子廃棄物を扱う特別な法律はありませんから。」

Haka、22歳、ジンバブエ

彼女たちは、月経衛生やCEFMUのような問題についての意識向上が、地域の変化につながったこと、また、他の人々に行動を起こさせ、しばしばコミュニティレベルで意見や活動の盛り上がりにつながったことについて語った。

「そしてその半分は、自分でも知らない、あるいは一生わからないような形で、おそらく違いを生んだのだと思う。なぜなら、彼らが誰かと話して、そのとき、『ああ、実はそのことで私の見方が変わったんだ』ってなるかもしれないから。あるいは、ああ、これをもっと詳しく読んでみようと思う、とか、それはひどい、それについて何かしたいとか。でも、私はおそらく、彼らのしてきたことを知ることはないでしょう。」

Elaine、21歳、アイルランド

95% の調査回答者が、自分の活動が自身に良い影響を与えたと答えている。

アクティビストたちはまた、自分の取り組みが自身や周囲の人に個人的な影響を与えたことも認めている:

「自分自身が変化し、より強い決意と能力を感じるようになった。以前は無力な子どもだと感じていましたが、今は能力があると感じています。」

Sanjiva、18歳、ネパール

アンケート回答者の約70%が、活動によって自信がつき、自分自身の成長や新しいスキルの習得につながったと回答している。

65% が、変革に貢献したことに誇りや満足感を感じていると答えた

LGBTIQ+と自認する人の72%が、変化に貢献したことに誇りと満足感を示したが、自信を深めたと答える人は少なかった。

誇りだけでなく、インタビューで伝わってくるのは力がついたという感覚だ。彼女たちの活動は、自分自身に能力があり評価されているという感覚をもたらしている:

「でもその時、私たちの力、人間としての力、そして自分には価値があるんだと実感したのです。これまで周りに言われてきた以上の価値が自分にはあると。それが、力がついたということなのだと思います。」

Miver、24歳、ベトナム

前向きであり続けるための闘い「本当に難しい」

誇りや力がついたという感覚と同時に、インタビュー回答者は、不安、うつ、燃え尽き、精神的疲労といった個人的・心理的な犠牲も認めている。

「ええ、まさに押しつぶされそうな感覚です。気候変動活動に携わる多くの人たちが、うつ病や燃え尽き症候群などに苦しんでいるのを知っています。本当に難しい問題です」

Rose、18歳、オーストラリア

25% の調査回答者が、活動中に感情的・心理的に不調や不安を感じたと回答した

押しつぶされるという感覚は、やらなければならないことが多すぎるからかもしれない。何をやっても十分ではない。

「そうですね、私の場合、時々、自分の努力が足りないんじゃないかと思って落ち込むことがあります...今のところ、そんなにすごく努力する必要はないと自分に言い聞かせるようにしている。一日一日、一歩ずつ進むだけ。でも、大半は動きながら学ぶことなので、学ぶことはできる。でも時々自分の努力が足りないように感じて、すごく落ち込むのです。」

Lauren、19歳、ナイジェリア、FGD

中には無力感を感じて休暇を取らざるを得なくなったアクティビストもいた。

「精神的にも肉体的にも病んでしまいました、心が体をコントロールするから。そして、大変な不安や憂鬱を抱えるようになりました。精神的な攻撃に耐えられなくなり、活動にも行けなくなりました。」

Adriana、24歳、ブラジル

他のインタビュー回答者は、絶え間なく努力し、とにかく続ける大変さを認めている。特に、変化の兆しが見えて実現しそうに思えたのにみじめな結果に終わり、耳を傾ける者など一人もいないように感じるときはなおさらだ。

「私は燃え尽き症候群のとき、一番落ち込んでいました...2020年、ナイジェリアでSARSの抗議デモが国中で起こりました。当初は、『ああ、これはうまくいっている。私たちの声はきっと届く、変化が起こる』、と思われました。そして、多くのユースが命を落とすという最悪の結末を迎えました。それでみんな燃え尽きてしまった。誰もがただ『オーケー』と言うだけだった。私個人は、奈落の底に落ちたようで、とにかく今は自分たちの力で立ち上がるのは無理だと思うほどでした。」

Grace、24歳、アイルランド、FGD[29]

レバノン出身のRimは、性に関する健康問題に取り組むフェミニストグループの立ち上げなど、自身の活動のために払わなければならなかった代償と、それが彼女の人生と心の健康に及ぼした影響について語った。

「地域から、そして家族からつまはじきにされ、結婚も遅れました。私は大学に通うために　移り住んだ街に、学士課程を修了するまで住むこともできませんでした...市議選に立候補したかったのですが、精神的に大きな負担になりそうなので、思いとどまりました。」

Rim、24歳、レバノン

圧力はあらゆる面でかかる:インタビュー回答者は、アクティビストの活動には競い合う面があること、家族や友人とは異なるあり方をすることや世間の注目を浴びることが、いかに大変なことか、ロールモデルとして尊敬されることは喜ばしいことだが、それ自体が不安をもたらすこともでもあると話してくれた。心の健康は、思春期の女の子とユース女性が行う活動テーマのひとつであり、パンデミック後はその重要度が一層高まったと多くの人が感じていた。オーストラリア出身のStella(19歳)は、心の健康に関するサポートを受けることができないことでアクティビストとして活動を続けるのが難しくなり、それがトラウマになりかねないと指摘した。

4. 思春期の女の子とユース女性はどのように組織化するか

キャンペーン参加者はほとんどが地元に集中し、ニーズや考え方を理解しているコミュニティで活動した:

- 調査参加者は、ほとんどの場合、地元あるいは国内レベルで変化をもたらすために組織化していた。世界の地域的な目標を掲げるのはまれで、国際的な舞台に大きな焦点が当てられていたのは、ヨーロッパと西・中央アフリカでのみだった。LGBTIQ+と自認する人は、人々の考え方の変化に焦点を当て、国レベルでの活動に的を絞る傾向が強かった。
- ピアツーピアインタビューやFGDに参加したアクティビストたちも、主に自身の身近なコミュニティに焦点を当て、CEFMUや月経衛生、GBVといった問題に対する意識向上を目指していた。また、草の根の活動には拡散力があり、政策決定者が注目せざるを得ないため、国や世界の力学の両方に影響を与えることも認識されていた。年配の経験豊富なアクティビストは、国家レベルで効果を発揮できる関係性を築いて、より積極的に活動していた。

「最初は本当にコミュニティレベル、近所のコミュニティの範囲でした。私が他の人々に伝えられる範囲で。でも、それが私の活動していた他の場所へと広がり、女性に対する暴力の連鎖に立ち向かう全国的なキャンペーンに参加する機会を与えてくれました....それは(Marist)Youth Ministryという若者のためのカソリック系の運動団体の中で始まったもので、宗教的要素が強く...多くの批判に直面し、大勢の人々と向き合いましたが、実は地域の体制を揺さぶり始める意図がありました。」

Eva、22歳、ブラジル

共により良く

インタビューに応じた女の子とユース女性のほとんどが、アクティビストの活動は集団的な試みであると論じていた。ニーズを感じとってコミュニティを作り変化を導くのは各個人でもできるが、集団で取り組むことで最高の結果が得られる。集団の一員であることで、自分の力が強くなるだけでなく、絆が生まれ、そこから力を得ることで継続することができるようになる。

「私たちが行ってきたキャンペーンのほとんどは、団体であるため集団的な要素が強く、いわばチームです。ユースの私たちがすべきこともある。みんなが自分に自信を持てるように、みんなを前に出したいから、みんなで作り上げる形になります。信頼関係も大切にしています。集団の中で、大勢の人の前で、自分たちのことや自分自身を表現できないか、話し合っています。」

Fatou、22歳、トーゴ

アクティビストたちは、集団で活動する方が効果的であるだけでなく、専門知識や人脈を築いてきた大きな組織での気づきが学びになると感じていた。彼女たちは、女性のネットワーク、NGO、地域組織、警察や政府省庁のような当局との連携について言及した。集団での取り組みは、アクティビストが伝えたい重要な助言のひとつである。リソースを共有し、他者の専門知識を活用し、支えられていると感じることが、成功を収め、レジリエンスを身に着ける鍵となる。

「そして、自分ひとりで何かに取り組み、情熱を燃やし、全力を注ぐのはとても難しいことだと知っています。チーム、友人、同世代の仲間、コーチ、自分を支えてくれる指導者がいることは素晴らしいことです。だから私は今ここにいる。私を支えてくれる人たちが周りにいて、自分を信頼してくれる人たちを見つけることができたのだから。」

Mala、18歳、タイ

5. 教育

調査参加者が、キャンペーンを展開し変化をもたらす鍵として根本的に重要だと考えているのは教育だった。知識を得るためには教育が不可欠であり、志を同じくする仲間を見つけるための重要な手段であることも多い。アクティビストたちは、自分が選んだテーマについて学び、スキルを向上させることに集中し、国連やNGO、学校や大学、講座、伝統的なメディアやソーシャルメディア、オンラインや対面での会合、プロジェクト活動や所属する集団など、さまざまな数多くの情報源から知識を得る。

「私にとって、教育はすべての基本だからです。陳腐な言葉ですが、私にとっては紛れもない真実です。教育とは、一人ひとりにアイデンティティをもたらし、そこから正義感、批判精神が生まれ、正義の探求が始まります。教育とは、より良い社会をつくる柱になるものだと私は思います。根本的に重要なのは、政治で起きていることとつながっていること。それがなくて何が起きているかわからなければ、批判することなどできませんから。

Amora、20歳、ブラジル



ジェンダー平等に向けて協力するユースアクティビストたち、ベトナム © Plan International

「私の母は女性の権利のアクティビストで、女性の権利に関する機関で働いていました。だから、これが私の道を開いてくれたんだと思う。」

Julia、16歳、ヨルダン

「私の場合、幼少期の経験がきっかけになったと思います。ステレオタイプや偏見、そして実際に自分がネグレクトされていたことです。ある日、私は貧困、貧困との闘いそして貧しさゆえにネグレクトされているという現実について話しました。でも、中にはいつも苛ついていて他人の気持ちなど聞きたくない人もいるという現実。傷つけたり、殴ったり、そういうことに気持ちが向かう人々。そういう人々にいてほしくないので、何かしようと考え、こういうキャンペーンに参加するようになりました。」

Mamou、22歳、ブルキナファソ

「性的暴行や性暴力を経験した女性をたくさん知っています。そして、ついに『もうたくさんだ。女性たちがこのような経験をしているのに、誰も助けてくれない、何もしてくれない』ことにうんざりしていたのです。それがきっかけで、女性の権利やこういったことに参加するようになりました。『こんなのバカバカしい』ってね。」

Ella、19歳、カナダ



私がアクティビストである理由

「 私は、女の子が普通に興味を持つようなことには興味がなく、『女の子なんだから、そんなことしちゃダメだよ。それは何？』みたいなことを沢山言われました。だから、私のために『この戦争 』を戦ってくれる人たちがいるなんて知らなかった。もし幼い頃から知っていたら、7歳の頃からアクティビストになっていたと思います。」

Valerie、22歳、ナイジェリア

「女性であることは重荷でしかなく、不利なことだと何度も感じました。特に、（反LGBTQ法案が可決された）現ハンガリー政権の女性に対する取り組み方や、少なくとも現時点でふさわしいとされる女性像に関して。だから、女性は少なくとも3人の子どもを産み、家にいるべきで、母親であることだけが女性にふさわしい唯一の仕事だとメディアで常に聞かされていると、とても腹が立ちます。フェミサイド事件については言うまでもない、そして、あなたの国もジェンダーに対して宣戦布告をしたら、ジェンダーなど存在しない、あるのは単なる性別だと考えているからで、怒りが沸き上がるのを抑えられないでしょう。」

Éva、20歳、アイルランド

「私はシングルマザーに育てられ、母は私と兄弟の面倒を見るのにとても苦労しました。また母は、父の家族から抑圧されていました。だから、正直なところ、成長するまで気づかなかったことですが、『そのおかげで私は強い女性に、そして女性のために生きるように育てられていたのだ』と時々思うことがあるのです。でも当時は、弱い存在に過ぎなかった。母親が抑圧されているのを見て、『ああ、神様、こんな抑圧から母親を救い出す力が私にあればいいのに』って思うしかなかったのです。」

Tani、23歳、ジンバブエ

「女性の権利のために戦うという領域では、誰もがこの考えを信じています：暴力事件について話しているときは、変化への熱意や怒りを感じることができます。」

Alexa、23歳、レバノン

立ちはだかる障壁と課題

資金を探す p.27

自信のなさ p.28

安全への不安 p.29

ジェンダー＋年齢 p.30

人種・宗教・民族 p.32

構造的障壁と市民活動の場 p.33

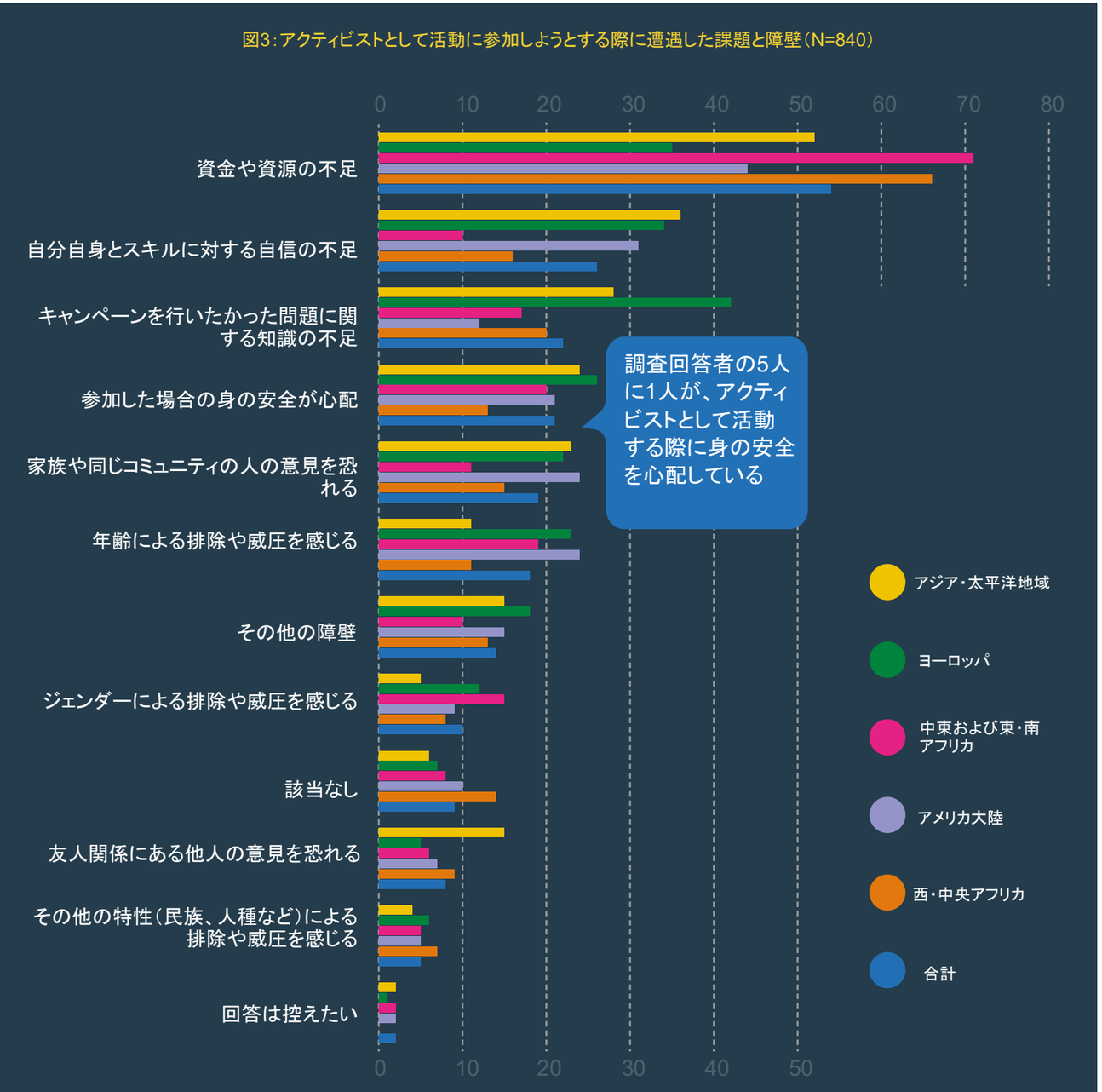
無視できない批判的意見 p.34

アクティビストとして活動するには、数多くのさまざまな障壁がある。支援は例外なく不足している。政策立案者へのアクセスは困難で資金や研修は不足しているのに、若い女性への差別はふんだんにある。政府の関与は多くの場合形ばかりで、コミュニティの年長者に敵視される場合もある。ユース女性アクティビストは、警察による保護もなかなか受けられず、ネットワークづくりやメディアと積極的にかかわるのも難しいのが実状だ。

しかし、全員がこうした影響を受けているわけではない；調査回答者の22%は、「アクティビストとして活動中に嫌な経験をしたことはない」と回答している。

農村部の生まれだと、アクティビストとして活動するのは一層難しくなると感じている者もいた。会議や活動が行われるのは都市部であることが多く、交通手段がなかったり交通費を払えなかったりと、移動に苦労することもある。

図3：アクティビストとして活動に参加しようとする際に遭遇した課題と障壁（N=840）



1. 資金を探す

54% の調査対象となったユース女性が、アクティビストとして活動する上で最大の障壁は「経済問題」だと回答している。

調査回答者の3分の1には思いつく資金源がなく、さらに3分の1がクラウドファンディングと市民社会からの支援で賄っていると答えた。インタビュー回答者は、資金源としてさまざまなものを挙げた。主なものはINGOやNGOからの資金であるが、地方自治体、国の政府省庁、学校や大学などの機関からの資金もある。通常、地方自治体やNGOからの資金提供は、自己資金や、ラッフル（慈善などを目的としたくじ）や持ち寄り販売、地元住民からの寄付などの資金調達活動と組み合わせて行われていた。

「私は…ほとんどの課題は金銭面だと感じています…この人には助けが必要だと本当にわかっているのに…支援に使える資金がないためにできないことがあります。そして、望みを抱かせ、そこに行って話をし、なのに状況を変えることができないことほど最悪なことはないです。それが最大の障壁だと感じています。」

Jessica、24歳、ジンバブエ

資金調達はアクティビストの多くが抱えている問題だが、自分たちの声を届けたり問題を話し合いの場に乗せることも難しい地元レベルで活動する女の子とユース女性には、資金調達の克服は到底無理だと思われるかもしれない。何人かのインタビュー回答者が、資金調達のために大きなINGOを通すことの利点について言及し、大きな国際NGOの後ろ盾があれば、計画した活動を実行するのが容易になり、彼らの専門知識から得られるメリットも大きいと感じていた。

資金を確保する上で多くが挙げた具体的な障壁

- お役所仕事で（少額であっても）手続きに時間がかかる
- 公認または登録されていないために資金援助が受けられない
- 助成金申請に高度なスキルが必要であるなど複雑な資金調達メカニズム
- 競争が激しく、小規模組織にとっては資金調達の選択肢が限られている
- 資金提供に関する制約が厳しすぎる
- 一般的に安定した持続性のある資金調達は少ない

「助成金は…ただ草の根的なつながりがあるだけで制度についての予備知識のない人にとっては、かなり遠い存在だと思う…」

Kaing、19歳、オーストラリア

「そういう大きな組織から資金を得ようとすれば、提案書を提出し、報告書を書き、他のパートナーとともにプロジェクトを実施する必要がありあす。私の組織だけではできません。」

Ta、22歳、ベトナム

助成金を得るのが難しいだけでなく、ユース議会のような政府の取り組みとして確立された活動にかかる費用も、アクティビストたちはめったにもらえない。このように金銭的な報酬がないという現実が重くのしかかる：多くの人は、旅費やデータ関連に必要な費用を出す余裕がなく、会合や集会でスナックや飲み物が買えず空腹になることもある。アクティビストの活動とキャンペーンは一般的に自由意志で無報酬で行われるため、参加する余裕のある人たちが中心になってしまうという問題があることを痛感していると何人かの女の子がコメントした。

「私は中流上層階級だから、うちには私が参加したい所に連れて行くお金があります。放課後に食べに行きたければ、親が車で連れて行ってくれます。私は車を持っているので、放課後にクラブやイベントに行かれるし、もし私が団体に参加したいなら、私はお金を持っているし、両親も快く融通してくれます…父は編集用のコンピュータを買ってくれたので、私は仕事や無報酬の活動のためにビデオを編集することができました。」

Amelia、18歳、カナダ



19 ھ ج 15

SOTWG

2. ک

LGBTIQ+

「何かに応募するとき、自分を売り込まなければならないと感じることがあります。私たちは何をしてきたのか、私たちは十分なのか、と。でも、特に私たちユース女性やジェンダー的に多様な人々にとっては、特にリーダーシップやアクティビストの活動のようなものに参加したら他人は当然こう思うだろうと考えて、自分のことがわからなくなってしまうのは、ものすごく普通のことだと思う。」

Mary 21

LGBTIQ+

LGBTIQ+ 2

3. م ٹ

ٹ ہ ٹ

2022 ق

31

GBV SRHR LGBTIQ+

Valerie STEM

15% の調査回答者が、オンライン上でハラスメントや虐待が行われていると回答している。

ネット上でフェミニズムやジェンダー平等について語ると、思春期の女の子とユース女性はヘイトスピーチや侮辱的なコメント（時には性的なもの）、荒らし行為に遭遇することがあった。Stephanieが気づいたように、そうした場合のインターネットの害はきわめて高い。

「 ユース女性が投げつけられる恐れのある侮辱を集めてビンゴカードを作ったら、おそらくそのほとんどを体験していると思います…しかし、インターネット上では顔の見えない誰かが好き勝手に何でも言えるのです。でも誰かが私を物理的に脅すなどの手段を取らない限り、行動することはできない。私の車椅子を奪いに来ると脅されたこともあった。それで、『取ったらどうするつもりなの？私が車椅子から飛び降りて、どうぞと言うとでも思った？どうするつもりなの?』と対応しました。」

Stephanie、24歳、オーストラリア

また、女の子とユース女性は、いくつかの組織でキャンペーンに参加した際、シニアスタッフからセクシュアルハラスメントを受けたと報告している。また、公共の場での抗議活動にも危険が潜んでいる。

「たくさんの障壁があって、言葉による暴力を受けたり、抗議活動中に警察の取り締まりを受けたり…私たちを逮捕しようとしたけど、一般市民やメディアが見ていたので去っていきましたが。」

Pushpa、23歳、バングラデシュ

参加者の中には、活動の過程で危険を感じたことがない人もいたが、それでも「不快に感じることはあった」と報告している。そしてこれまで見てきたように、多くの人が自信が持てずに苦しんでおり、自分がどう見られ、どう扱われているかによって、不安は増大する 。

「 年配の人たちがそういうことを言うときに大声で声を張り上げなくてはならないことがありますが、私を力で抑え込もうとしているのが見え見えで、不愉快になることがあります。」

Laura、17歳、ドイツ

BMZ

NGO

4. 年齢＋ジェンダー

「女の子には新たなチャンスは開かれておらず、女の子の意見は男の子のようには聞いてもらえないのが普通だと思います。男性と女性が同じ部屋にいるとしたら、男性がまず先に意見を伝えることになります」

Julia、16歳、ヨルダン

調査回答者と同様に、アクティビストたちも、女の子・ユース女性であるという年齢とジェンダーの両方が、目標の達成を難しくしている恐れがあることを認めている。ユース女性アクティビストは、男性アクティビストに比べて知識が乏しいと見られている。彼女たちは見下され、無視されることがあるという。

「『 いや、君は若すぎるから、私たちが話していることを理解できないだろう』。気候変動部門でよくあることです。私たちは前回のCOPの準備に関わろうと、メールや電話でたくさん連絡をとり、方針説明書を書きました。そして、彼らは読んで検討すると言ってくれた。COPの準備に参加させて欲しいとお願いすると、『ああ、君たちには複雑すぎて理解できないだろう 』という答えでした。」

Leonie、22歳、ドイツ

ジェンダー・ステレオタイプにさらに年齢が加わって、思春期の女の子とユース女性の足かせとなる。彼女たちは、発言だけでなく見た目も厳しくチェックされ、ユース男性アクティビストには決してしないような方法で行動を監視される。インタビュー回答者は、女の子と女性が公の場で発言する際には、多くの敵意に直面する可能性があると指摘した。ケニア出身のWanjiku（22歳）は、コミュニティで口論をすると父親によく叱られたという。これは、受け入れられている行動に反することであり、人々の考え方を変えるのは難しく、甘んじて受け入れるのも難しい：

「...私たちのコミュニティは、私たちの声を評価しなかったり、検討してくれないことが多いのです。彼らには独自の文化的信念や社会的タブーがあり、女性にはほとんどの場合、家庭や小さな輪の外で何かを変える権限は与えられておらず、意思決定の場に参加したり、社会で最も重要な問題について大きな声で話したりすべきではないというのです。」

Degan、22歳、ソマリア

社会のあらゆるレベルで、思春期の女の子とユース女性の意思決定への関与が話題に上ることはままあるが、実行に移されることはほとんどない。

「問題は政策決定プロセスにユースが存在しないことだと私は考えます。というのも、ユースはこうした問題の影響を受ける当事者であるにもかかわらず、今は多くの団体からステークホルダーとして見られていないからです。」

Mala、18歳、タイ

「女の子や女性の意見は聞きたくないのです。なぜなら、私たちはただの女の子で、常に強い女性差別があるからです。」

Belu、19歳、パラグアイ

これまでの『世界ガールズ・レポート』報告書では、女性差別と女の子とユース女性に対する恐ろしい暴力の文化が指摘されてきた。恐怖が彼女たちの願望の歯止めとなって生活のあらゆる部分で移動を制限し、自信が損なわれていく[32]。今年の調査もこれを裏付けている。

「若い頃、ある時期から私は恐れられ、拒絶されました。特に[場所削除]は、良い女性は家にいるべきだという保守的なイスラム教の都市です。意見を言う強い女の子もいますが、彼女たちはいつも攻撃されます。私は個性と活動のために攻撃にさらされ、私がフェミニストであることが、この地域ではとても物議を醸し、多くの誹謗中傷にさらされ、傷つけられました。でも今は、現実と考え併せて良しとし、彼女たちの存在は認められ、その力を証明したのです」

Talia、22歳、ヨルダン

男性の敵意は、多くのインタビュー回答者が指摘しており、大きな恐怖を与えている可能性がある。男性は、ユース女性アクティビストを自分の権力や特権を脅かす存在と見ることが多く、ジェンダー平等や女性の権利は自分たちの不利益にしかならないと考える。回答者は、一般的に女性アクティビスト、特に男性の行動に異議を唱える女性アクティビストが、家族やコミュニティに緊張をもたらしていることを強く認識していた。

「力強く、教養があり、自分が何を望み、何を望まないかを知っている女性に、男性はある種の怖れを抱きます...私の兄弟が妻を虐待していて、私は彼女に、彼を警察に通報するように言います。すると、ユース女性が自分の頭で考え、より強く、自立して自分の望むことを決められるようにしようとしていると言って、家族や隣人との間に緊張を抱えることになります。そしてコミュニティの中で抑え込まれることになる。特に男性や、女性は抑圧され従順でなければならないと感じている一部の女性によって。」

Tani、23歳、ジンバブエ

多くの国では、家族がアクティビストの活動やコミュニティ活動を評価しないという姿勢をはっきりと示す場合が多かった。家族の望みは、ユース女性が妻となり母親になることに専念するか、少なくともソーシャルワークではなく医学を学んで高給を得られる仕事に就くことなのだ。

活動の大義を支持できない、あるいは隣近所から何か言われるのを恐れて家族が妨害することもあるが、それは娘の安全に対する心配もあってそうしている場合が多い。

「私の父と母は、私がそのような活動やキャンペーンに参加することを望まなかった。なぜなら、女の子が、外に出てそのような活動をすることは受け入れられないし、私に何か起こるかもしれないと恐れていたからです。私の将来のために娘を困難や批判にさらしたくないので、愛情からそうしたのかもしれませんが、それでも、ここではジェンダーの問題もあったのだと思います。両親は私が一人で活動することを望まなかったので、私にとっては障害になりました」

Sanjiva、18歳、ネパール

アクティビストたちが直面する差別の回避策として、多くの場合しぶしぶ取り入れたのが、同僚の男性たちを前面に立たせるというやり方だった。日本のアクティビストたちは、東京都知事選の投票証明書を持っている人にレストランでの割引を提供することで、投票率を上げるキャンペーンを行った。彼女たちはレストランに交渉に行ったが、女の子であるために相手にされなかった。男の子と一緒にレストランを訪れたところ、プロジェクトの目標を達成することができた。他にも同じような戦術をとった者もいた：

「私たちは男性の活動参加者を利用することに決めました。なぜなら、男性は男性の仲間の言うことを信じる傾向があるから。女の子として、男性に何かを話して信じてもらうのはとても難しい。男性はどうしても女性の私を見下そうとすることが多いです。」

Leah、20歳、ケニア



Safer Citiesプロジェクトのユースアクティビスト、ペルー
© Plan International / Anika Büssemeier



先住民の女の子とユース女性のためのオンライン・リーダーシップ・ワークショップに参加するユース女性アクティビスト、グアテマラ © Plan International / Sandra Sebastián

5. 人種、宗教、民族

さまざまな差別的偏見が重なり合って、若いアクティビストの障壁になっている例も挙げられた。有色人種のユース女性は、よく警察から虐待の標的にされていると感じている。場所によっては、アクティビストたちの集まりに有色人種が限られた人数しかいないため、有色人種は目立ちやすい。

「気候変動運動には信じられないほど白人が多い…ただ目立つだけでも、いつも特定の種類の人たちしかいないとしたら…もちろん、警察を相手にしなければならないから、時には警察による暴力もある…でも、白人以外の人たちが警察の暴力を受けることが多いのも、残念ながら事実です」

Lillith、17歳、オランダ

取り締まりや抗議行動中にも人種差別があることは、いくつかの国で言及されており、ブラジル出身のEva（22歳）は、黒人女性としてフェミニズムの旗を掲げると、より多くの反感を買うと指摘した。オーストラリア出身のRose（18歳）は、部屋の中で有色人種は自分だけだと気づくことがよくあるという。同じくオーストラリア出身のLily（24歳）は、有色人種の女性として議会の場で政策決定者と話をしていると、議会にある性差別と人種差別の両方を一層実感するようになると述べた。

若いムスリム女性もまた、標的にされたと感じ、批判にさらされている。トーゴのMafilatou（23歳）とエチオピアのDalinah（24歳）は、ヒジャブをかぶっていることで人目を引きやすい感じがあると述べた。バングラデシュのSadikaは、活動の仲間には男性も女性もいたが、彼女が育ったコミュニティでは嫌な顔をされていた。彼女にとって最大の課題は、不道徳な女性ではなく、正当なアクティビストとして人々に受け入れてもらうことだった。

6. 構造的障壁と市民活動の場

極右勢力の台頭とともに女性差別が強まり、女の子と女性の権利に対する攻撃が新たに高まる中で、女性アクティビストの活動は場所を問わず一層困難で多くの場合恐怖を伴うものになっている。権利の普遍性に関する観測所の調査によれば、反権利集団が、ジェンダーと性に関する権利の弱体化をすすめる国家・非国家による国境を越えたネットワークを構築していることが確認されている[33]。

アクティビストたちは、言論の自由の縮小に向けて一層強硬化する法律が活動の妨げになっていることを実感している。中絶、避妊、LGBTIQ＋の権利など、政府や宗教指導者らにとって面倒なテーマに関する啓発活動が禁止されたり、苦労して勝ち取った関連しあう権利は総じて後退している。

「女性が中絶医療サービスを受けられないことは、女の子と女性に多くの困難をもたらします。私は、絶望と悲しみ、女性に及ぶ多くの影響を目の当たりにしています。そしてそのことが、エチオピアでも高まる妊娠中絶反対運動を変えるために提言活動をする動機となっています。なぜならエチオピアには、女性と若い女の子が中絶医療サービスを利用することを認める先進的な法律があるからです。しかし、（中絶権を保障した）Roe対Wade判決が覆された後、妊娠中絶反対運動が高まっています。それが私を最も強く奮い立たせ、アクティビストとして活動、あるいは提言活動をする原動力になっています。」

Etenesh、24歳、エチオピア

アクティビストは構造的な障壁と戦っている。規則が厳格な制度や、一層制限を強める法律、そして、紙の上では権利を保護するが実際には機能しない法律などである。インタビュー回答者の中には、教育省が議論できる内容を制限しているため、学校で活動することが難しいという人も入れれば、保守的な宗教的信念を背景にした社会的・政治的議論によって女の子のアクティビストが主導する活動に不利益が及んできているという人もいた。

思春期の女の子とユース女性が市民活動の場で直面する障壁がますます大きくなっていることにも注目すべきだ。年上のアクティビストは、若いアクティビストよりも人数が多く、キャンペーン中に危険を感じていると報告している。あるインタビュー回答者は、アクティビストらが迫害され、脅迫され、犯罪者にまでされている実状を語った。

「アクティビストたちが違法なことをしようとしていると思えば、彼らは証拠が何もなくても数日間拘留することができます。多くの気候変動アクティビストたちが、認知を高めようと、接着剤で自分の体を道路に貼り付けて道路をふさぐため、可決された法律があります…その法律のせいで、バイエルン州では気候変動アクティビストたちが大勢刑務所に入っているのです。」

Leonie、22歳、ドイツ

女の子は特に、行き過ぎた取り締まりを受けたり、投獄されやすいと感じることがあり、いくつかの国の女の子は、市民活動の場が縮小している実状を訴えた。この調査に参加した26カ国のうち、平和的集会の完全な権利が認められているのは10カ国だけだった[34]。理論上は抗議行動が認められているカナダとドイツでさえ、アクティビストたちは、政府が制限を課したり、抗議行動をやりづらくする法律を可決したりしていると指摘した。さらに、手続きがお役所的で複雑なため、抗議行動や公共行事を企画するのが困難になっている。

とにかく警察の許可が必要で、もしキャンペーンやロビー活動、提言活動をしたいなら、警察の許可を得る必要があり、そのために遅れが生じる…彼らが許可するのは、彼らと同じ側に立っているか、彼らがしていることに反することをしていない場合だけ…最近の政府だけでなく、これまでに成立したすべての政府にはその文化があります。」

Hawanatu、17歳、シエラレオネ

グアテマラのB'atz（21歳）も、自分の国も法律上は言論の自由を推進しているが、実際には必ずしもそうなっていないと述べた。発言したり共有した内容によってアクティビストが逮捕される。多くの国でデジタル著作権に対する締め付けが行われており、ヨルダンのLaila（24歳）は、自分がした投稿に反対する意見が出ると、サイバー犯罪部門に通報されると語った。こうしたアクティビストを犯罪者にしたり迫害する傾向は、一国に限ったことではなく、強まりつつある。

「キャンペーンを開始するのは非常に挑発的なことで、もし自分の社会、宗派、党派の考えと正反対の意見を述べれば、反対キャンペーン、サイバー軍、暴言やサイバー暴力、ハラスメントにさらされる恐れがあり、女の子として最も恐れていることに直面することになります。」

Luna、23歳、レバノン

7. 無視できない批判的意見

27% の調査回答者が、コミュニティの人びとや家族、友人の意見を恐れている

多くのインタビュー回答者によれば、彼らの意見は否定的な場合が多いので特に驚きはないという。政治的活動は不安を引き起こす傾向があり、ほとんどの回答者が批判を受けたことがあった。

「つまり、特に政治的、社会的な問題に関して意見を持つ女の子を見て、『ああ、もう、あの子は黙って消えてくれないかしら』と思う人が、世界の大部分にはまだいると思うのです。」

Stephanie、24歳、オーストラリア

仲間はずれにされ、拒絶されていると感じることも、思春期の女の子とユース女性アクティビストの活動を妨げるひとつの障壁になっている。15～19歳の若いアクティビストは、年上の年齢層よりも家族の意見や反対を心配していた。また、年齢を理由に排除されたり威圧されたりすることを、年配の回答者よりも強く感じていた。身近な人たちから絶え間なくダメ出しをされて力を削がれ、大きな負担となる。

「ステージに上がって、提言活動をやっていると、群衆から『彼女はどうやってしゃべっているんだ？あの服装を見てよ…。彼女は英語もろくに話せない』。それを聞くと、『私はここで何をしているんだろう？』と、文字通り落ち込んでしまいます。」

Barbie、16歳、シエラレオネ

インタビュー回答者は、LGBTIQ+コミュニティのメンバーと付き合ったり、性やSRHRに関するキャンペーンを行ったりすると、各方面からの批判がひどくなると回答した。コミュニティの中には女性アクティビストを不良扱いする者もいる。

「アクティビストとして活動する女性は売春婦で、しゃべりすぎで、中には夫をコントロールできない女性や両親を大事にしない女性もいる…そういう凝り固まった考えなのです。」

Fanta、24歳、シエラレオネ

基本的に、国や文化の違いにかかわらず、アクティビストたちが直面するのは、女性は立場をわきまえるべきであり、その立場は、変化をもたらそうとする選挙運動の檀上にはないということだ。思春期の女の子とユース女性が大声を出したり、男性に指図したり、規範に異議を唱えたり、自分自身の声と主体性を持ったりするなんて、とんでもないことなのだ。

「 勝ち目はないような気がするのです。抗議運動に参加したり、街頭でデモ行進をしたり、そうやって変化を求めると、大声を張り上げてしまう…その一方で、アクティビストともっと意思決定的な関わりを持つと…たとえば、会議に入って、何かについて発言しようと … … と

Aoife 21

é ي ؤ

Degan 22

¡ ي ث ى ﻡ

「意識の問題かわからないし、あるいはアクティビストの活動や仕事は幅広くて、舞台裏で書き物をしたり編集したり、Eメールを書いたり下書きしたりといった、あれこれ退屈な仕事があることを、もしかしたら理解していないのかは、わからない。ほとんどの人にとってアクティビストの活動と言えば、ただピケを張って政治家に向かって叫ぶとか、そういうイメージだと思う。それは、決してアクティビストとしての活動の全体像ではありません。」

Rhylie 21



CEFMU反対を訴える安全なスペースプロジェクトで、ユース女性が護身術教室を開いている © Plan International

すべての反応が否定的なわけではなく、多くの人が勇気ある者として尊敬され活動を評価されていると回答している。地域住民のなかには、若いアクティビストを模範とし、地域社会の役に立っていると考える人もいた。

「 提言活動を通して、私は人びとから尊敬を集め、彼らは私の意見やアイデアに耳を傾け、私たちのコミュニティで実施するプロジェクトやプログラムに関する会議で私は意見を求められました。」

Kristine、20歳、フィリピン

ネパールのBinsaは、家族や友人から多くの支援を受けており、上級当局に出向く必要があるときには、区の行政さえも助けてくれるという。ソマリアのDeganも、特に協力的な母親に感謝しており、他にも多くのアクティビストたちが、両親やコミュニティの人びとから好意的に受け入れられていると報告している。前進を感じている者もいる。

「現在、私たちの社会は少しずつ変わりつつあり、政策部門や提言活動部門で働く女性アクティビストや変革者たちを以前より肯定的に見るようになってきています。そして政策部門や活動に取り組むよう女性たちへの働きかけも増えています。」

Nadia、23歳、バングラデシュ

障壁を乗り越える

調査期間中、私たちは参加した女の子とユース女性に、その対処法を尋ねた。燃え尽き症候群が問題になっている人もいたが、アクティビストとしての活動をあきらめようとする人はほとんどいなかった。多くの場合、活動を続け、立ちはだかるさまざまな障壁を乗り越えるためのカギとなる方法は、集団主義と協力だった。

「他の人と話すことで、ずいぶん違います。孤独を感じなくなります。この種の闘いでは、時に強い孤独を感じるから、話すと希望が持てるようになります。同じように悩み、戦っている人たちと話すと、希望が湧いてくるんです。こういう活動をしていても、孤独を感じなくなります…そしていつも、他の視点や他の問題を学びます。どうすれば解決できるのか、どこまで進んでいるのか。前に進んでいないと感じることもあるけれど、他の人たちと話すことで気持ちが楽になります。」

Amora、20歳、ブラジル

「仲間の数が多ければ多いほどいいです。数には力があるということわざがある通り、今では以前よりしっかりと私たちの話を聞いてもらえます。人数が多い方が話を聞いてもらいやすいのです」

Monte、18歳、ドミニカ共和国



Global Girls Summit 2022のパネルディスカッションに参加する女の子、ナイジェリア© Plan International

多くのアクティビストが、それぞれの仕事の分野ごとに特定の戦略を用いていた。

意見や希望を主張すること

- 嫌な気分になったら伝え、活動から抜けたい場合は率直に話し合う。
- 特に直接行動への参加に関連した、デジタルフットプリントを削除する。

精神衛生上の課題

- 自分自身が批判されていると考えないようにする。
- セルフケアを実践し、限度を超えないようにする。
- 精神衛生の講習と活動に関する研修を受ける。
- 活動やコミュニティ活動をたくさん抱えているときは、一人になれる場を持つ。

安全への配慮

- たとえば、対面の行動に先立って啓発キャンペーンを実施するなど、テーマに深く踏み込む前にコミュニティの意識を高める。
- コミュニティリーダーとの協働。
- セーフガーディングについて適切な対策をとる。
- 学校、NGO、警察など、さまざまな機関と組織から支援を得る。

オンライン・ハラスメント

- 特定の投稿へのコメントをオフにする。
- ソーシャルメディアでの発言の仕方についてキュレーション（情報の収集・整理・要約・公開）を行う。
- オンライン上では匿名にする。
- 罵倒ツイートをミュートする。
- 攻撃し返すのではなく、より良いコミュニケーションの方法を見つけ、必要であれば他のプラットフォームを使う。

回答者の多くは、コミュニケーション能力や調査能力を高めることについても述べており、彼女たちの権利について教えて自信をつけさせる学校、彼女たちを保護する法律、彼女たちの活動を支援する態勢のできている個人や機関など、環境を整えることの重要性を認識している。

「ユースが気軽に参加できる環境を作ることも重要です。たとえば、私が*Women 7*（*G7*に向けた公式エンゲージメントグループ）に参加しとき、（*G7*サミットでは）知らない用語がたくさんありましたが、助けを求めることができる環境がありました。ユースの参加を促進するためには、こうしたサポートも重要だと思います。」

Lily、22歳、日本



声を上げる

ナイジェリア出身の23歳のWisdomはフェミニストアクティビストで、法学部を卒業している。16歳のときにジェンダー平等のために闘う組織でボランティアを始めて以来、活動を続けている。彼女は今年のSOTWG報告書の共同調査者であり、アクティビストの活動全体と彼女が学んだことについて考えを述べている。

家父長制社会に生きるユース女性として、この社会には、私のような者がのびのびと成長し十分に表現できる場所がないことに早くから気づいていました。私は13歳でフェミニストに、16歳でアクティビストになりました。

私が自らフェミニストとして積極的にジェンダー平等活動を始めて以来、多くの学び直しと学習がありました。政府の反応は日に日に早くなっているように見えるし、個人や集団もジェンダー格差の是正や、女の子と女性の声を高める必要性に気づき始めている。しかし、現状はまだ理想とはほど遠いです。

この調査に参加したことで、社会が『規範』や『性質』というレッテルで女性たちに強制的に課す制限は、社会を構成する1つの概念に過ぎず、異議を唱えることはできるし、そうしなければならないということが確認できました。参加者たちと話をすることで、彼女たちが公正で公平な世界を実現するためにそれぞれの役割を果たしていることがわかり、私も意欲が湧きました。『小さな水滴が大海を作る』と言われるように。この調査を通じて、自分の活動が他の人々に刺激を与え、私がインタビューした女の子とユース女性の旅の手助けになったことを知ることができ、私も心躍る気分でした。

女性と女の子の未来には明るさが見え、いつの日かジェンダー平等が当たり前の、公正で公平な世界に住みたいと私は願っています。それは、何気ない女性差別、そして人々の内面や制度、組織にある女性差別を心配せずに済む世界です。

今日の固定観念に根差した物語を変え、新たな物語を作り出すためには、私は自分の望む変化のために闘い、要求しなければなりません。

これからの道

あらゆる困難にもかかわらず、インタビューに応じた女の子と女性アクティビストはほとんどが、自分たちの仕事に誇りと充実感を感じていた。

「自分のしていることが好きなら、一日たりとも働くことはない、という表現があると思う。それが、私が取り組むときの心構えです。自分が変化を生み出し、自分が最も影響を受け、最も情熱を注いでいる人びとの生活の質をゆっくりと、でも確実に向上させているのだと分かっていれば、なおさらです。」

Amber、23歳、カナダ

10年後にはどうなっているかと尋ねられたとき、彼女たちの多くが思い描く未来には、始めた活動を続けている自分たちの姿がある。女の子とユース女性は、運動をさらに広げて、政府の政策に影響を与え、他の女の子とユースが提言アクティビストになるきっかけと勇気を与えたいと述べた。

「10年後には、すでに大学の学位を取得し、…自分の力で組織上の変化を起こせる仕事に直接かかわり…自分が意思決定権を持ち、その意思決定権によって、自分のいるコミュニティや自治体の女性に利益をもたらすことができる、と言えるような地位に就いている自分がいます。」

Mary、23歳、グアテマラ

「自分自身は専門家として…能力のある女性になって..コミュニティは、女性たちが参加する機会が今よりずっと増えて、女の子たちには、女性だからできないという障壁がない、そんな未来が見えます。」

Luki、21歳、パラグアイ

また、社会活動やコミュニティ活動を通じて、アクティビストとして活動を続けていると考える者もいた。彼らは、草の根の活動と、政策を変えるためのキャンペーン活動を組み合わせることの重要性も感じていた。カナダ出身でソーシャルワーカーのRhylieは、政策が足かせとなり、助けたい人を助けられないことがあることに気づいていた。政策立案に参加することが重要だと考えるのは彼女だけではない。

「私はオランダ外務省のユース諮問委員会の一員に選ばれて…最終的に私は国際政策のテーブルにつくことができたので、いわば私たち全員にとって、高みを極めた感じでした。というのも…テーブルにつくことができれば、より大きな影響力を持つことができるからです。政策立案者と直接話すことができ、彼らがやっていることに影響を及ぼすことができるのですから。」

Chiamaka、21歳、ナイジェリア、FGD

多くのインタビュー回答者が、次世代と協働し、実際に参加することを呼びかけ、これまで無視されてきた声が届くプラットフォームを提供することが重要だと考えていた。また、地域レベルでジェンダー平等に特化した活動を行い、人びとが議論しづらい考え方や慣習に取り組み、注目されないまま野放しにされないようにしたいと考える者もいた。

「私が求めて闘っている、あるいは啓発しているのは、少なくともひとつの小さな地方のコミュニティで、ジェンダー平等の概念を彼らの頭の中に完全に定着させることです。そして、根深いジェンダー不平等の概念を根絶することが目標です。エチオピアの場合、ジェンダー不平等 は深く根付いており、そう簡単には根絶できないから、ものすごく大きな目標です。だから、できることなら1つか2つのコミュニティ、できることなら3つ、できることなら100万のコミュニティでそうしたいのです。」

Lucy、21歳、エチオピア

女の子とユース女性たちは、10代から20代にかけてアクティビストとして参加した活動をきっかけに、今後も人生を通じて関わっていこうと決心していることは明らかだ。

「もっと高いレベルで他の人たちを助けようとしている自分の姿を見てみたいです。シエラレオネだけでなく、外の世界でも、女性や子どもたち、恵まれない人たちを助けたい。だから、今後10年間には、国連のような場所で提言し、女性や女の子たちが社会で重要な存在となって快適に過ごせるようにするための戦略を打ち出している自分の姿を見てみたいのです。」

Musu、22歳、シエラレオネ

今後職業としてアクティビストの活動に取り組もうとは思わない者も、多くがメディア、政治、教育、医療、法律などの分野で働きたい、彼女たちが熱意を持つ問題に携わりたいと考えていた。

「アイルランドの全国女性評議会は、家庭内暴力や性暴力の被害者の法制度へのアクセス、そしてその制度にアクセスすることがいかに難しいかについて報告書を出しました…だから、GBVからの保護と訴追をめぐって、法律の世界で変化に影響を与えることができれば、本当に素敵なことです。」

Sally、22歳、アイルランド

また、アクティビストとして活動する代償、つまり活動の大変さや努力してもなかなか進展を実感できない面を考えて、そこまで強気になれないという声もあった。

「毎週末のようにイベントで話したり、毎週抗議を企画したり、毎週金曜日は学校を休んだり、そんなことを2、3年も続けていると、かなり疲れる。ずっと続けられるとは思えない。多くの人にとって、長期的にそうするのは無理だと思う。」

Rose、18歳、オーストラリア

「多分私は今の父のような気持ちになるような気がして、落ち込んで少し悲しくなって、どうしようもなく情けない気持ちになってしまう…80年代に運動家だった父を見ていると…父には達成感はあるけど、現実を見ると、どれも差し迫った問題ではなかった。だから、父は少し悲しいのです。」

Gormfhlaith、24歳、アイルランド



声を上げる

Tamは ベトナム出身の23歳。最近フルブライト大学ベトナムを卒業し、心理学の学士号を取得した。過去2年間、いくつかの調査プロジェクトに参加し、特に職場の性差別が女性の精神衛生に与える影響に関心を持っている。彼女は今年のSOTWG報告書の共同調査者であり、彼女が学んだこと、そして将来への提言について思うことを述べている。

ベトナムでは、ジェンダー平等を推進する政府の取り組みにもかかわらず、性差別と偏見が蔓延しています。この現状と闘うことを使命としている私は、インタビューしたユース女性アクティビストたちの情熱と決意に強く鼓舞されました。彼女たちは先駆者としてコミュニティで活動し、友人や家族に呼びかけて一緒に活動しています。大学や仕事と並行して、ジェンダー平等のためにこのようなキャンペーンを展開していることは、特に素晴らしいことです。

もうひとつ衝撃を受けたのは、これは私にも共通する課題ですが、プロジェクトに十分な資金を確保するのがいかに難しいかということです。アクティビストは小規模な活動に終始し、もっと多くの資金が集まった場合に比べ、少ない人々にしか手を差し伸べられない。私が必要だと考える最も重要な変化は、もっと多様なアクティビストが取り組む機会を増やすこと、つまり報酬を増やすことです。女性アクティビストや調査者たちが、もっと大きな影響力を持つ仕事をするには、コミュニティへの貢献を目指す、非営利の学術的調査プロジェクトのための資金が必要なのです。

資金不足は、女性アクティビストたちがプロジェクトの規模を拡大したり、活動を生涯続けていく妨げとなっている。

結論

「プロジェクトのグローバル化について話したいと思います。とても良いプロジェクトはありますが、それを必要としている社会的・経済的に困難な状況下にある女の子たちには届いていません。簡単に行かれて機会が多いし開発が進んでいるからと、私たちは機会の多い場所に注目しがちです。しかし、それを必要としているのは、資源が届かない場所にいる女の子と思春期の若者なのです。私は、資源がないことは権利がないことと同じだと言う人です。」

Minerba、17歳、ドミニカ共和国

思春期の女の子とユース女性の多くにとって、アクティビストとしての活動はやりがいのあるものではあるが、同時に延々と続く過酷なものでもある。世界のさまざまな地域のコミュニティや国ぐにで、彼女たちが発言したり、政治活動に参加したり、変革のために行動を起こすように働きかけられることはない。高い代償を払うことになる恐れがあるからだ。嫌がらせを受け、仲間はずれにされ、無視される。身の危険や心の健康を心配する者もいる。

個人的なレベルでは、優れたコミュニケーション能力や調査能力とともに、自信とレジリエンス、忍耐力、勇気といった資質を高めなければならない。そして、支援体制があるとはとても言えない現在の政治的・社会的環境の中で活動する術を身につけなくてはならない。思春期の女の子とユース女性は、市民活動の場が縮小する困難な背景の中で組織化を進める一方で、アクティビストとしての活動を困難にする法律と規制はますます増えている。

こうした状況にもかかわらず、女の子とユース女性はコミュニティで、さらにはそれぞれの国内や世界で活動し成果を出しつつある。彼女たちは、自分たちが持つ集団の力を強く信じている。彼女たちは、世論に影響を与えることも、有害なステレオタイプに異議を唱えて女の子特有のニーズと権利に取り組む政策改革を推し進めることも、力を合わせればできることを知っている。

「私が学んだことのひとつは、自分にとって重大な問題は、決して自分だけが重大だと思っているわけではないということです…誰も自分が気にしているほど気にしていないと思うのは、とても簡単です。でも、声を出して訴えれば…ほとんどの場合、あなたがゴールに到達する手助けをしたいと思う人たちを見つけることができます。なぜなら、多くの場合、あなたの成功を望んでいる人が他にもたくさんいるからです。そして、大変な仕事も、一緒にすれば、みんなが助かるのです。」

Stella、19歳、オーストラリア

調査から伝わってくるのは、ユース女性アクティビストの力に一目置くべきだということだ。彼女たちは提言アクティビストそして変革者としての役割を認められ、評価されなくてはならない。彼女たちの運動は民主的プロセスに不可欠なものである。そして彼女たちにはより多くの支援が必要だ。その支援は、さまざまな形で提供することができる。

- **資金調達**、あるいは資金不足は何度も話題に上った。多くのアクティビストが具体的に資金調達の方法や調達先を改善する方法、助成金を申請して確保する方法について、支援を求めている。食料品、おむつ、石鹸、読み物、生理用ナプキン、Zoomのライセンス、旅費など、資源の支援を求める声もあった。また、予算編成の支援や、活動に対する直接的な財政支援に言及する人もいた。NGOなどがイベントやセミナーのスポンサーになり、アクティビスト全員が参加できるよう経費を負担してくれるようにする。
- 全体的に、**研修**は非常に求められており、人前で話すことやリーダーシップ、テクノロジーやソーシャルメディアの活用、自身が関心を寄せる問題についての知識の向上、法律や統治についての理解など、多岐にわたった。
- 外部機関が支援できるもうひとつの分野は、**ロビー活動**、提言活動や政治制度に関する指導、政策決定者へのアクセス（特定の問題について誰に、いつ、どのようにアプローチするか）、プラットフォームやネットワーク構築の機会の提供などである。
- 若いアクティビストが効果的に活動するには、彼らが**安心**して活動できることも必要であり、彼らが活動している組織は、しっかりとしたセーフガーディングの方針、厳格なフィードバック・メカニズム、心の健康を守る報告の仕組みを備えている必要がある。

「人権やジェンダー平等、あるいは政治や社会階層における平等を主張するとき、私たちは命を危険にさらしていることはわかっています。何年も何年も維持してきたシステムが社会構造の一部になっていて、法律など多くの形で私たちを制限しているのです。」

Fern、24歳、タイ

以下に示す提言は、この調査に参加した女の子とユース女性の考え、経験、意見に基づいている。これらの提言は、彼女たちの影響力を拡大し、彼女たちがはっきりと掲げている目標が私たち全員にとって重要であること、つまり私たちが彼女たちと共にいることを確信させることを目的としている。



選挙を前に、女の子は相談会に参加する、ドミニカ共和国
© Plan International / Fran Alonso



プランが支援するユース・メディア組織のラジオ司会者たち、
マラウイ © Plan International / Quinn Neely

提言

あらゆる意思決定の場において、権力者が女の子とユース女性の集団的行動を支援し、彼女たちが市民社会を担う価値とその役割を認識することがきわめて重要である。これを達成する鍵となる方法は4つある。

1

女の子とユース主導の草の根組織やネットワークに対する柔軟で多様な資金提供の量を増やす。



2

思春期の女の子とユース女性の市民的活動と政治的活動を促す。女の子とユース主導の草の根組織に主導権を与え、オープンで安全な市民活動の場を通じて政策決定者へアクセスできるようにする。



3

特に、強い反権利運動とジェンダー差別の拡大を背景に、家庭、国、国際レベルで積極的に政治的活動を行う人々に対して高まる反発と、女の子とユース女性の活動に立ちはだかる障壁に取り組む。



4

自信をつけ、コミュニケーション能力を向上させ、リーダーとしての潜在能力を高める上で必要なソフトスキル（対人的な交渉・指導・意思疎通などを上手く行える能力）の育成など、あらゆるレベルで女の子とユース女性の教育を支援する。



行動への呼びかけ



1. 資金面の支援とその他のサポートを提供する

資金を提供する各国政府、慈善家、資金提供団体、市民社会組織は

- 女の子とユースが主導するグループ、組織、ネットワークに対し、その活動を支援するための柔軟で即応性のある資金提供を**増やす**。元手となる資金やその他柔軟性のある資金提供を組み込み、少額の助成金や長期融資を含め、彼らの優先事項と彼らの活動状況に対応できるようにする。資金調達の負担を軽減し、ユースのグループがプログラムの優先順位を調整し、環境の変化に対応できるよう、複数年の柔軟な助成金を利用できるようにすべきである。
- 資金面以外で女の子のニーズに沿った支援を行う。これには、女の子とユースが主体的に参加する能力強化、メンタリング（自発的な発達を促す育成法）やネットワーク構築の機会へのアクセス、政策決定者や影響力のある場にアクセスできること、安全・安心、心の健康やウェルビーイングの支援、オフィススペースなどの物理的資源などが含まれる。
- リスクに対する姿勢を**見直し**、ユースへの権限と信頼を高める。女の子のアクティビストとユース女性主導のグループが資金やその他資金以外の支援を受ける上で妨げとなる制度的な障壁をなくすことも含む。直接的な資金提供を増やすために慣例を見直すのに時間がかかる場合は、資金提供者はフェミニストおよび/またはユースに友好的な仲介者などとの連携や資金の移動についてさまざまなやり方を進んで試し、女の子と若者が主導する組織・ネットワークに対する支援を資金面とその他の両面で行うための解決策を探らなくてはならない。
- 未登録であったり、銀行口座の所有など資金提供者が示す必要条件を満たせない場合は、特にそうするべきである。
- 女の子と共同で設計した、より包摂的な参加型の助成金提供プロセスを通して資金を**提供**する。資金提供者の優先度の決定や、資金配分に関する意思決定の中心に、女の子を据える必要がある。資金提供者は、よりユースにやさしい申請や報告プロセスを採用し、事務や報告の負担を減らすべきである。ボランティアであることが多い若者が時間的自由を持つことで提言活動に取り組む力が高まる。
- 公正で適切な報酬を**提供**する。女の子とユースと共に活動する組織は、彼らの時間と専門知識の対価を払う必要がある。資金提供者は、報酬の上限を設定する責任を負うことが多いが、ジェンダーの視点に立って、生活費とインフレ率を考慮した現地の経済情勢を反映した方法で行わなければならない。また、市民社会とNGOは、活動に従事するユースに対して、金銭的な報酬を含む適切な支援を行う必要がある。



2. 公共生活のあらゆる分野における女の子とユース女性の意義ある参加を促し、政策決定者へのアクセスを容易にする

各国政府は

- 女の子主導のグループやユースグループの結社・集会の自由、情報へのアクセス、プライバシーの権利、意見を聞いてもらう権利を制限する、制度上にあるあらゆる障壁を**取り除く**。彼らの自主性は尊重され、余計な干渉から解放されなければならない。
- 国内の法律と政策で、女の子とユース女性が活動や資金調達先の選択で影響を受けることなく運動や団体の中で組織化し、法的に登録するかしないかを選択できるようにする。
- 女の子とユースが主導するグループが市民社会のメンバーとして尊重され、公的な対話と意思決定に参加できるよう、自治体とともに必要な場と資源を**提供**する。
- あらゆる多様性を持つすべての女の子とユース女性アクティビストが社会生活で活躍できるよう、国内の法律と政策を**採択**し、予算を組み、実施し、監視する。これには、すべての子どもとユースに対する暴力と、特に女の子と女性が政治的活動をしようとする際に受けるジェンダーに基づく差別の存在を認め、それらから彼らを守る法律も含まれなくてはならない。法律と政策は、CRC、CEDAW、ICCPRを含む国際人権法に則ったものでなくてはならない。

各国政府、地方自治体、国の省庁は

- ユース協議会や子ども・ユース議会など、正式な合議体に女の子とユースが参加できる既存の枠組みを**増やし**、強化し、そのために必要な資源を十分に提供する。これらの枠組みが確実にジェンダーと年齢の視点に立った方法で機能し、女の子とユース女性のあらゆる多様性の包摂を促進する。

国連、各国政府、そして国際社会は

- グローバルな開発アジェンダと枠組みの形成、実施、監視への女の子とユース女性の意義ある参加を実現するために取り組む。これには、SDGsの枠組みにおける、女の子、ジェンダー平等、そして「誰一人取り残さない」原則や、世代間平等、国際人口開発会議など他のプロセスに対してこれまでに行った約束を支持することが含まれるべきである。女の子とユース女性が意思決定のあらゆるレベルにアクセスして自分の意見と提言を自由に表明できるよう、各国政府は、2023年9月に開催されるSDGサミットや2024年9月に開催される未来サミットなどに限らず、政府間協議の場に参加する各国代表団に女の子とユース女性を含めることを検討すべきである。

3. 女の子とユース女性アクティビストの活動を阻む障壁と、積極的に政治にかかわる人々に対する反発の高まりに取り組む



各国政府は

- 社会規範の変革キャンペーン、法律と政策の施行、報告メカニズムの強化により、女の子とユース女性アクティビストが、オンライン上でも公共の場でも、脅迫、嫌がらせ、暴力を恐れずに発言できるようにする。女の子たちのネットワークとユースのグループは、政府当局、軍、地元の法執行機関からの干渉を恐れることなく、発言し抗議行動に参加する自由を持つべきである。

政府の政策立案者とソーシャルメディア企業は

- **責任を持って**女の子とユース女性アクティビストのためにオンライン上にアクセスしやすい安全で開かれた市民活動の場をつくり、インターネットに接続・安全にアクセスして有意義に活用できるようにする。これには、コンテンツのモデレーション（コンテンツのチェックと不適切な者の削除）のための規制の枠組みを作ることや、女の子のニーズと経験に対応して、オンライン上のGBVと年齢をめぐる差別に特化した、効果と透明性が高く利用しやすい、より強力な報告メカニズムを作って加害者の責任を追及することも含まれる。

国内、地域、国際人権機関および政府は

- 女の子とユース女性の人権保護アクティビストらが置かれている状況を把握し、彼女たちを保護し力を与えるための適切な**措置をとる**。

政府、資金提供者、NGO、ジェンダー正義運動は

- 最前線で提言活動をしている女の子主導のグループのウェルビーイングと安全を確保するために**資源を提供し、支援する**。女の子たちは、自身に対する構造的な暴力や差別に対処する際に、自分たちのこころの健康を整え、支えてもらえる場を必要としている。特に、紛争下や市民活動の場が制限され、政治体制が不安定な国で提言活動をしている女の子や、きわめてデリケートな問題やタブー視されている問題についてキャンペーンを行っている女の子の場合が、これに当たる。

国連機関、パートナーシップ、国際NGOを含む国際機関は

- コミュニティで声を上げ、提言活動することを選択した女の子とユース女性に、早期から機会を与え持続的な支援を提供するメンタリングを含む長期的なプログラムに**投資**し、支援する。可能であれば、これらの組織は、女性の権利運動や他の草の根組織と連携して、女の子のアクティビストに世代を超えた支援、連帯、メンターシップを提供すべきである。

4. あらゆるレベルで女の子とユース女性の教育を支援する



教育省は

- 人権教育とシチズンシップ教育に焦点を当てた、包摂的で質の高いジェンダー・トランスフォーマティブ教育を確実に行う。すべての子どもたちとユース、特に女の子とユース女性に、アクティビスト、提言アクティビスト、知識ある市民として市民的活動や政治的活動に自信を持って参加するために必要なスキル、知識、批判的意識、経験を身につけさせる。この取り組みはSDG4.7の目標に明記されており、各国政府は「誰一人取り残さない」という約束の一環として、これを実施するための進捗状況を常に報告するよう努めなくてはならない。

学校関係者（教師、協議会、保護者）は

- 生徒、特に女の子に、リーダーシップの育成、人前で話すこと、学校評議会や選挙など学校の枠組みにおける意思決定プロセスへの参加など、影響力を発揮するために不可欠なソフトスキルを身につける機会を**提供**する。

国際NGOと市民社会は

- 変化をもたらすための女の子とユースアクティビストの価値を**認め**、提言活動にとって重要なスキルの育成を支援する。効果的な提言の組み立て方や、政策のさまざまな段階やプロセスでの政策決定者への働きかけ方などである。また、リーダーシップ、人前での話し方、自信など、ソフトスキルの育成にも重点を置く必要がある。

謝辞

何よりもまず、この調査の一環として、アクティビストの活動やキャンペーンに関する意見や経験を話してくれた思春期の女の子とユース女性たちに感謝したい。彼女たちの時間と深い考察に感謝する。

インタビューを実施して仲間のアクティビストから重要な洞察を引き出すという素晴らしい仕事をしてくれた共同調査者たちがいなければ、この調査はできなかっただろう。

- Yasmin Poole、Elizabeth Payne、Grace Falconer（オーストラリア）
- Fahmida Nishi、Saima Akter Dipty（バングラデシュ）
- Débora Maria de Andrade Santo、Eduarda Santos Marques（ブラジル）
- Vickie Stella Hien、Mawamoussé Marlene Wazina Farida Pardevan（ブルキナファソ）
- Jennifer Wani、Ashley Whiteman、Bhanvi Sachdeva（カナダ）
- Nicol Alexandra Reyes、Delicia Ruiz Brito、Dawanny Rasel Montilla Ogando（ドミニカ共和国）
- Selamawit Gebremeskel、Hanadi Yusuf、Wudassiemariam Telahun（エチオピア）
- Gayda Narin Aytan（Narin）、Katja Schieritz（ドイツ）
- Lesly Jennifer Yesenia Coc Bol、Prisma Rodriguez、Vidalía Ortíz Miranda（グアテマラ）
- Tara O'Neil、Emer Neville（アイルランド）
- Shiori Yoshimura、Sayaka Ishii（日本）
- Razan Khalil Al-Alam、Ahd AL-Majali、Juhaina Zureikat（ヨルダン）
- Silvia Aoko、Shamim Atieno、Latifah Njoki（ケニア）
- Dana Saad Deen、Jinan Zaaiter、Clara Merheb（レバノン）
- Maureen Kachale、Stacey Mdala、Catherine Sitole（マラウイ）
- Manisha Chaudhary、Rejina Dhakal（ネパール）
- Lotte Peters、Jetske Beke（オランダ）
- Wisdom Ojonugwa Omata、Heritage Sanmi-Lawal、Faith Onomwem Waziri（ナイジェリア）
- Bianca、Adriana、Liliana（パラグアイ）
- Jessie Marie A Pedemonte、Nenia Nicole Alota、Alyanna Mitch Panganiban（フィリピン）
- Blessing Kutubu、Kadiatu Tholley（シエラレオネ）
- Hafsa Omer、Soumaya Mahdi、（ソマリア）
- Manyasiri Chotbunwong、Pornthip Rungrueang、Janthida Lapai（タイ）
- Tchalim Abidé Moyoo、Douguema Bakpilna、Boumogue Abiré Nadège（トーゴ）
- Tran Ha Anh、Pham Nguyen Dan Tam、Pham Vu Quynh Ang（ベトナム）
- Michelle Varaidzo Tarumbidzwa Chikurunhe、Zvikomborero Hope Matsito、Rudo Linda Mudzingwa（ジンバブエ）

本調査はプランの協力により実施された。特に以下に謝意を表する。

報告書チーム。Sharon Goulds（編集責任者兼報告書執筆者）、Karin Diaconu博士、Isobel Fergus（オリジナル報告書執筆者）、Aisling Corr、Danya Marx、Jenny Rivett（寄稿者）

調査のためのユースアドバイザー。Sandra CheahとThien Nguyen。また、彼らの意見を調整したグローバル・ユース＆キャンペーン・オフィサーのIfigeneia Kamaraotuにも感謝する。

プラン・インターナショナル編集委員会。Isobel Fergus（暫定調査部長兼報告書プロジェクト・マネージャー）、Jacqueline Gallinetti博士（監視・評価・調査・学習部長）、Danny Plunkett（コンテンツ・クリエイティブ部長）、Zoe Birchall（キャンペーン・動員グローバル・リーダー）、Madeleine Askham（ユース参加政策・アドボカシー・リーダー）、Robin Knowles（グローバル・メディア・マネージャー）、Anna MacSwan（グローバル・メディア・広報部長）、Kathleen Sherwin（最高戦略・エンゲージメント・オフィサー）。

貴重なご意見をいただいた以下の方々に感謝する。Tenar Gomez-Lorente、Keya Khandaker博士、Chris Dominey（プラン・インターナショナル・グローバル・ハブ）、Josephine Brouwer、Agnes Neray、Anniek Groothius（プラン・インターナショナル・オランダ）、Anjum Sultana、Angie Ramos-Torres（プラン・インターナショナル・カナダ）、Milena Oliva（プラン・インターナショナル・グアテマラ）、Rachel Challita、Afdokia El-Khoury（プラン・インターナショナル・レバノン）、Rama Dahabra、Dalia Kharoufeh（プラン・インターナショナル・ヨルダン）。

その他の寄稿者。序文を寄せてくれたMuzoon Almellehanと、今回のテーマについて各々の考えを紹介してくれた共同調査者のNarin、Tam、Wisdom、Vidaliaに特に感謝する。

質的データのコーダー。Nabila Mella Garip、Maite Sobrino Gonzalez、Chipiwa Maziva、Bernie Zakeyo、Alba Murcia、Zoe Roth Ogier、Lea Lyngo、Aisling Corr、Danya Marx

国別事務所および国内組織チーム。調査をすすめ、まとめ役を務めてくれたプランの各事務所スタッフ、および本報告書へのフィードバックをしてくれた各国事務所と国内組織チームに感謝する。

フォーカス・グループ・ディスカッション ファシリテーター 。Karin Diaconu博士、Isobel Fergus、Aisling Corr、Danya Marx、Adele Parve、Jenny Rivett。

デザイン。Sandra Dudley

巻末資料

1 女の子とユース女性は、840人の参加者調査、203人のインタビュー、合計57人の参加者による7つのフォーカス・グループ・ディスカッションなど、さまざまな方法で参加した。完全版を参照のこと: https://plan-international.org/publications/turning-world-around

2 CIVICUS. (2023). Facts and Figures. CIVICUS Monitor. Retrieved from https://monitor.civicus.org/facts/ [Accessed 15 August 2023].

3 この調査の対象となった26カ国のうち、平和的集会の完全な権利を認めているのは10カ国だけである。

4 UNDP Human Development Reports 2021 online at https://hdr.undp.org/content/two-steps-forward-one-step-back-where-are-we-heading-gender-equality [13 August 2023].

5 Equal Measures 2030. 2022. 2022 SDG Gender Index. [online] https://www.equalmeasures2030.org/2022-sdg-gender-index/ [Accessed 20 July 2023]にて入手可能。

6 World Economic Forum. 2023. Global Gender Gap Report 2023. [online] https://www. weforum.org/reports/global-gender-gap-report-2023 [Accessed 20 July 2023]にて入手可能。

7 Mantler T, Burd C, MacGregor JCD, Veenendaal J, McLean I, Wathen CN; Violence Against Women Services in a Pandemic Research Team. “There’s no amount of tea in the world that is going to fix the patriarchy right now”: The gendered impacts of the COVID-19 pandemic for women in the gender-based violence sector. SSM Qual Res Health. 2022 https://europepmc.org/article/med/36212782 [Accessed 10 August 2023].

8 OECD Policy Response to Coronavirus 2021 https://www.oecd.org/coronavirus/policy-responses/caregiving-in-crisis-gender-inequality-in-paid-and-unpaid-work-during-covid-19-3555d164/ Accessed 13 August 2023

9 Mama Cash. (2020). Feminist Activism Works: A review of select literature on the impact of feminist activism in achieving women’s rights. Retrieved from: https://www.mamacash.org/media/publications/feminist__activism_works_mama_cash.pdf [Accessed 16 May 2023].

10 AWID (Association for Women’s Rights in Development). (2021). Where is the money for feminist organising? Data Snapshots and call to action. Retrieved from: https://www.awid.org/sites/default/files/2022-01/AWID_Research_WITM_Brief_ENG.pdf [Accessed 16 May 2023].

11 Ibid.

12 United Nations Development Programme (UNDP) Gender Social Norms Index 2023. Retrieved from: https://hdr.undp.org/content/2023-gender-social-norms-index-gsni#/indicies/GSNI [Accessed 11th August 2023].

13 Taft, J. K. (2017). Teenage girls’ narratives of becoming activists. Journal of Gender Studies, 26(1), 27-39. https://doi.org/10.1080/21582041.2017.1324173.

14 BBC Worklife. 2022, August 3. Gen Z: How Young People Are Changing Activism.. Retrieved from https://www.bbc.com/worklife/article/20220803-gen-z-how-young-people-are-changing-activism [Accessed 2 May 2023].

15 CIVICUS. (2023). Facts and Figures. CIVICUS Monitor. Retrieved from https://monitor.civicus.org/facts/ [Accessed 10 May 2023].

16 Washington Office on Latin America (WOLA). (2023). Regressive Wave for Women in Central America. WOLA. Retrieved from https://www.wola.org/analysis/regressive-wave-women-central-america/ [Accessed 12 May 2023].

17 Human Rights Watch. (2023, March 23). El Salvador: Court Hears Case on Total Abortion Ban. Human Rights Watch. Retrieved from: https://www.hrw.org/news/2023/03/23/el-salvador-court-hears-case-total-abortion-ban [Accessed 10 May 2023].

18 Human Rights Watch. (2023, April 18). Human Rights Crisis: Abortion in the United States after Dobbs. Human Rights Watch. Retrieved from: https://www.hrw.org/news/2023/04/18/human-rights-crisis-abortion-united-states-after-dobbs [Accessed 10 May 2023].

19 Human Rights Watch. (2022, March 15). “Life and Family” Bill: Smokescreen for Corruption in Guatemala. Human Rights Watch. Retrieved from: https://www.hrw.org/news/2022/03/15/life-and-family-bill-smokescreen-corruption-guatemala [Accessed 10 May 2023].

20 Tactical Tech. (unknown). Shrinking Civil Space: A Digital Perspective. Our Data Ourselves. https://ourdataourselves.tacticaltech.org/posts/shrinking-civil-space-a-digital-perspective/ [Accessed 2 August 2023].

21 O’Malley, D. L., & Johnson, R. (2018). A young feminist new order: an exploration of why young feminists organise the way they do. Gender & Development, 26(3), 533-550. https://doi.org/10.1080/13552074.2018.1526370

22 Braungart, R. G., & Braungart, M. M. (2001). In International Encyclopedia of the Social & Behavioral Sciences.

23 Elliott, T., & Earl, J. (2018). Organizing the Next Generation: Youth Engagement with Activism Inside and Outside of Organizations. Social Media + Society, 1-18. DOI: 10.1177/2056305117750722.

24 Kimball, G. (2019). Media Empowers Brave Girls to be Global Activists. Journal of International Women’s Studies, 20(7), 35-56. Available at: https://vc.bridgew.edu/jiws/vol20/iss7/3.

25 Barrett, M., & Pachi, D. (2019). Civic and Political Engagement Among Youth: Concepts, forms and factors. In M. Barrett & D. Pachi (Eds.), Youth Civic and Political Engagement. Routledge.

26 O’Malley, D. L., & Johnson, R. (2018). A young feminist new order: an exploration of why young feminists organise the way they do. Gender & Development, 26(3), 533-550. https://doi.org/10.1080/13552074.2018.1526370

27 完全版を参照のこと: https://plan-international.org/publications/turning-world-around

28 より詳細な調査方法についてはTech Reportを参照のこと: https://plan-international.org/publications/turning-world-around

29 Grace（本名ではない）はナイジェリア出身

30 Eva（本名ではない）はハンガリー出身。

31 OHCHR (Office of the United Nations High Commissioner for Human Rights). (2022, September). Despite Being at the Forefront of Activism, Women and Girls Still Face Barriers. Retrieved from https://www.ohchr.org/en/stories/2022/09/despite-being-forefront-activism-women-and-girls-still-face-barriers

32 Plan International (2018) SOTWG Report: Unsafe in the City, Plan International (2020) SOTWG Report: Free to Be Online? https://plan-international.org/publications

33 AWID (2021) Observatory on the Universality of Rights Trends Report – rights at risk. time for action

34 Right of Assembly Information Center. (2023). Right of Peaceful Assembly: A Comprehensive Resource. Right of Assembly. https://www.rightofassembly.info/ [Accessed 26 July 2023]にて入手可能。

プラン・インターナショナルについて

私たちは、世界中の女の子のために子どもの権利と平等を推進するために努力している。私たちは、子ども一人ひとりの力と可能性を認めている。しかし、それは貧困、暴力、排除、差別によって抑圧されがちである。そして最も影響を受けているのは女の子なのだ。

独立した開発・人道支援団体として、私たちは子どもやユース、支援者やパートナーとともに、女の子やすべての弱い立場の子どもが直面する課題の根本原因に取り組んでいる。生まれてから大人になるまで子どもの権利を支援し、子どもが危機や逆境に備え、対応できるようにする。私たちの活動範囲、経験、知識を活用し、地域、国、世界レベルで実践と政策の変革を推進する。85年超にわたり、子どものために強力なパートナーシップを構築し、80カ国超で活動している。

Girls Get Equal

プランは、10年以上にわたって女の子の権利のためのキャンペーンを展開しており、「Girls Get Equa」キャンペーンは、女の子とユース女性が自身の人生に対して力を持ち、自身を取り巻く世界の形成に貢献できるようにすることを目的としている。リーダーシップを促進し、女の子の声を増幅することが、このキャンペーンの中心である。女の子が権力者にアクセスし、自身の生活を形作る決定に関与できるようにすることは、女の子の権利を守る上で極めて重要である。社会的・政治的変革のためのキャンペーンに女の子が参加することは、あらゆるレベルで支援される必要があり、女の子の活動に対する障壁は認識され、取り除かれなければならない。

Plan International
Global Hub

Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155
Fax: +44 (0) 1483 756505
E-mail: info@plan-international.org

plan-international.org

Published in 2023

facebook.com/planinternational
twitter.com/planglobal
instagram.com/planinternational
linkedin.com/company/plan-international
youtube.com/user/planinternationaltv